

令和 2 年度 社会福祉法人啓和会 事業報告

I 法人本部 事業報告

社会福祉法人啓和会は、令和 2 年度事業計画に基づき、設立の理念と公益性を踏まえ、多様化する福祉ニーズに応えられるよう、提供するサービスの質の向上に努めました。さらに事業経営の透明性の維持のため法令を遵守し、社会情勢の変化に柔軟に対応できる経営姿勢で事業基盤の強化を図りつつ、次に掲げる事業の経営を行いました。

社会福祉法人啓和会 運営状況一覧

	名 称	種別	事業内容	定員数	所 在 地	事業種別	
法人運営	法人本部				久喜市六万部 1435		
	久喜けいわ	障害者支援施設	生活介護	67	久喜市六万部 1435	第一種	
			就労移行支援	6	久喜市六万部 1445		
			就労継続支援 B 型	32			
			施設入所支援	54	久喜市六万部 1435	第二種	
			短期入所	6		公益	
			日中一時支援				
	グループホーム清久	グループホーム	共同生活援助	44	久喜市上清久 1524-1	第二種	
	清久			(7)			
	上清久			(4)			
	ハイツ清久			(3)	久喜市上清久 667-5		
	こすもす			(4)	久喜市葛梅 446-12		
	おぎそね			(7)	久喜市久喜東 4-20-13		
	サテライトこぎそね			(1)	久喜市久喜西 187-15		
	こがらい			(7)	久喜市六万部 780-2		
	しらはた			(7)	久喜市上清久字白幡 628-1		
	うちや				(4)		久喜市下早見 1769-1
				短期入所	1		

	ワークハウスコムラード	障害福祉サービス事業所	就労継続支援 B 型	20	久喜市下早見 1769-6	第二種
法人運営	相談支援センター	相談支援事業所	相談支援		久喜市青毛 753-1	第二種
			障害児等療育支援			公益
			巡回支援専門員整備事業			
			久喜市障害者就労支援			
			障害者就業・生活支援			
			久喜市基幹相談支援			
	障害者生活支援センターさよく	特定相談支援事業所	相談支援		久喜市六万部 1445	第二種
久喜市指定管理受託運営	久喜市いちょうの木	障害福祉サービス事業所	生活介護	40	久喜市所久喜 835-1	第二種
			日中一時支援			公益
	久喜市ゆう・あい	障害福祉サービス事業所	生活介護	20	久喜市上内 327-6	第二種
			日中一時支援			公益
	久喜市あゆみの郷	障害福祉サービス事業所	生活介護	15	久喜市東大輪 2273-1	第二種
			就労継続支援 B 型	15		公益
			日中一時支援			
	久喜市立のぞみ園	障害児通所支援事業	児童発達支援事業	10	久喜市北青柳 1331	第二種

久喜けいわ施設入所・生活介護では、新型コロナウイルスの影響で行事や活動がかなり制限されました。感染症対策も講じていましたが、12月中旬に生活棟でクラスターが発生し、利用者31名、職員4名が感染しました。利用者は病院への入院や施設療養、職員はホテル療養や自宅療養を経て、無事に全員揃うことができています。引き続き新型コロナウイルスの感染には十分に気をつけ、環境や活動の工夫をしながら楽しみがある生活を送れるようにしています。

久喜けいわ就労移行では、定期的に就労支援センターと会議を行い、年度内に2名の方が就職し、入れ替わりに2名の方が新規利用されました。

就労継続B型では、年間平均工賃が12,820円の実績でした。新型コロナウイルスの影響により前年度に比べて約4,000円支給額が減ってしまいました。更に「けいわ味噌」においても、学校給食の休止やイベントが全て中止になったことで、多くの在庫が残ってしまいました。そのため、販売単価を下げ、各事業所の職員や保護者へアナウンスし、たくさんのご協力により例年通りの在庫数を捌くことができました。その他新型コロナウイルスの感染対策として、職員と利用者には手指消毒の徹底やマスクとフェイスシールドの着用を促し、空気清浄機の設置やパーテーションも配置し環境も整えました。

グループホーム清久では、4月より新型コロナウイルス感染予防策を講じ、職員・利用者ともに手洗い・消毒・換気・健康チェックなど毎日行ってきましたが、12月に利用者2名と職員1名の感染者が出てしまいました。幸いそれ以上の感染拡大はありませんでしたが、感染力の強さを思い知らされました。また4月より単身生活を希望する1名の利用者に対して、サテライト型住居「こぎそね」の開設。老朽化が激しかった仁丁町を廃止し、3月より7人ホーム「しらはた」を立ち上げました。

相談支援センターでは、生活支援においては医療機関退院後のサービス利用希望が多いもののコロナの影響もあり利用先調整が難航している傾向、就労支援においては精神面の不調のために離職する方が多く、生活支援を含めた支援が必要となっている傾向が有りました。基幹相談支援センターでは久喜市と連携して地域自立支援協議会の事務局の役割を担い、感染防止対策を講じたうえで人材育成のための研修や担当者会議を実施しました。

障害者生活支援センターきよくでは、サービス等利用計画書の作成134件、モニタリング報告書の作成357件と進捗状況は概ね計画通りでした。専任の相談支援専門員を1名配置していることで、兼務者の負担が軽減し、円滑に進めることができました。

ワークハウスコムロードでは、利用契約者数は29名になりました。緊急事態宣言が発令され通所を自粛する利用者も出ましたので、在宅支援をおこない利用率の低下を防ぐ努力もしましたが、利用率は最大81%、年平均68.2%と目標を上回ることができませんでした。また、開所時から取り組んでおりました玉ねぎの栽培と販売は令和2年度6月をもって終了いたしました。

いちょうの木では、年度当初の4ヶ月間で利用者3名の退所がありました。2名は施設への入所で1名は転居によるものでした。いずれもご家族の方の高齢化等によるもので家庭環境の変化が理由でした。そのため、定員の充足が課題でしたが実現はできませんでした。一方で、重度障害者支援加算（対象者20名）を取得したため、介護給付費等による収入は昨年度に比べ大幅な収入増となりました。また、社会の需要に重点を置いた作品作りと客層を絞った販路先の選定と拡充により、作業収入は昨年度の約1.8倍の増となりました。

のぞみ園では、平均利用率が64.6%と前年同様低調でした。幼稚園・保育園と併用をしている園児が利用しない日を有効に活用できなかったことと、新型コロナウイルス感染予防による利用の自粛のため利用率があがりませんでした。幼稚園・保育園との併用や移行をするケースが増えている傾向があるため、園児の受け入れ態勢を整えて利用率を上げていくことが課題です。新型コロナウイルス感染予防のため実施できなかった活動や行事がありました。感染予防対策を取り、実施方法を工夫しながら園児にとって必要な療育支援を進めていきます。

ゆう・あいでは、利用者それぞれの個性やニーズに応じたグループの再編成を行い、毎日に作業内容を計画立て、その内容に応じた職員配置で取組めるようにして活動の

充実を図りました。また、新型コロナウイルス感染症で各イベントが中止になり、自主製品を販売する機会が減少したため、11月に保護者向けに自主製品販売会を実施して、作業工賃の向上と作業意欲が高まるようにしました。

あゆみの郷では、新型コロナウイルスの影響を大きく受け、就労継続B型の工賃収入が大きく下がりました。コロナ禍の中、途切れなく作業を行う事が出来ましたが、受注する品、数量共に減少しました。現在もコロナ禍で出荷数自体が減少してしまい受注できていない会社がある状況です。今後、令和元年度の工賃収入まで戻すことを目標に置きます。また、12月に新型コロナウイルスのクラスターが発生しました。感染者数は、59名（利用者28名、職員11名、家族等20名）でした。入院等が必要で一時症状が重く出た人もいましたが、現在は健康を取り戻しています。この経験を踏まえ感染前に増して予防対策に力を入れています。

(1) 理事会・評議員会の開催

令和3年3月31日現在

日 時	審議事項・目的事項	場 所	出席状況
令和2年5月19日(火) 監事監査 10:00~12:00	1 平成31年度(令和元年度)理事の業務執行状況 2 平成31年度(令和元年度)財産の状況	久喜けいわ	監事1名 常務理事 幹部職員
令和2年5月27日(水) (決議があったものとみなされた日) 第112回役員会	議 題(決議の省略) 1 定款の一部変更の件 2 平成31年4月1日から令和2年3月31日までの事業報告の承認の件 3 平成31年4月1日から令和2年3月31日までの計算書類及び財産目録の承認の件 4 定時評議員会の決議の省略及び報告の省略の件 報告事項(報告の省略) 1 社会福祉充実残額の件		
令和2年6月19日(金) (決議があったものとみなされた日) 第73回評議員会	報告事項(報告の省略) 1 平成31年4月1日から令和2年3月31日までの事業報告の内容報告の件 2 監督官庁が実施した検査又は調査結果の件 3 社会福祉充実残額の件 決議事項(決議の省略) 1 定款の一部変更の件 2 平成31年4月1日から令和2年3月31日までの計算書類及び財産目録の承認の件		
令和2年10月27日(火) 第113回役員会 10:30~12:05	議 題 1 グループホーム「しらはた」の建物賃貸借契約の件	久喜けいわ	理事 9/9 監事

	2 グループホーム清久運営規程の一部改正の件 3 令和2年度第1回補正予算(案)の承認の件 報告事項 1 理事長及び業務執行理事の職務執行状況報告の件		1/2
令和3年3月25日(木) 第114回役員会 14:00~19:15	報告事項1 1 常務理事辞任届の受理の件 議 題 1 常務理事の選定の件 2 業務執行理事の業務分掌決定及び職員職務の委嘱の件 3 常務理事の報酬等の額決定の件 4 相談役委嘱の件 5 責任限定契約締結の件 6 幹部職員人事の承認の件 7 令和2年度第2回補正予算(案)の承認の件 8 令和3年度事業計画(案)の承認の件 9 令和3年度収支予算(案)の承認の件 10 職員就業規則の一部改正の件 11 職員給与規程の一部改正の件 12 契約職員就業規則の一部改正の件 13 パートタイム職員就業規則の一部改正の件 14 退職手当支給規程の一部改正の件 15 ハラスメント防止規程の制定の件 16 自家用車両等通勤管理規程の制定の件 報告事項2 2 理事長及び業務執行理事の職務執行状況報告の件 3 監督官庁が実施した検査又は調査結果の件	久喜けいわ	理事 9/9 監事 2/2

(2) 経営的な法人運営

ア 経営財源確保等

(ア) 幹部会議等で各事業所の利用率と収支状況を定期的に確認しました。新型コロナウイルスの影響で利用が落ちる事業所もありましたが、在宅支援の給付をうまく活用し、大幅な減収にはなりませんでした。

(イ) 幹部会議において啓和会の経営力をテーマに、幹部職員にアンケート形式で経営力を上げるための取り組みを考えてもらいました。

(ウ) 令和2年度4月より「久喜市いちょうの木」で重度加算の取得を開始し、大

幅な増収となりました。次年度に向けて他の事業所でも重度加算が取得できるよう準備を進めました。

(エ)独立行政法人福祉医療機構借入金の償還状況は以下の通りです。

借入年度 借入先	借入額	期首残高	令和2年度 償還金	借入残高
平成18年度 福祉医療機構 (就労継続)	25,000,000	9,170,000	元金 1,310,000 利子 161,785	7,860,000
平成27年度 福祉医療機構 (GH清久)	10,000,000	8,592,000	元金 576,000 利子 45,804	8,016,000
合 計	35,000,000	17,762,000	1,886,000	15,876,000

イ 人事制度の研究

(ア)同一労働同一賃金の問題に対応するため各事業所の正職員と非正規職員の業務配分調査を行い、職務の内容を整理しました。

(イ)労働法制の変化に対応し、時代に合った働き方ができるよう就業規則、給与規程等の見直しと改定を行いました。

ウ 今後の事業構想

(ア)久喜けいわ旧棟建替のための具体的な計画策定まではできませんでしたが、老朽化に対応するため建物調査を行いました。そこで屋上と外壁に必要な修繕が認められたため、建替まで建物を維持できるよう修繕を進めます。

(イ)4月からサテライト型グループホーム「サテライトこぎそね」(定員1名)を開設しました。また、老朽化したグループホーム「仁丁町」を廃止し、グループホーム「しらはた」(定員7名)を開設しました。

(ウ)令和2年度は下記の施設整備・修繕を実施しました。

事業内容	事業費(円)	財源
1 けいわ自立棟給水管設備工事	356,070	自己資金
2 けいわ自立棟給湯管設備工事	929,830	〃
3 けいわ自立棟ガス配管設備工事	254,980	〃
4 けいわ自立棟ガス給湯器3台設置	934,122	〃
5 けいわ男性棟浴室給湯器設置	193,600	〃
6 けいわ女性棟浴室給湯器設置	193,600	〃
7 けいわ玄関、男性棟、自立棟排煙窓設置/	759,550	〃
8 けいわ受水槽、給水管、加圧ポンプ工事	304,700	〃
9 けいわ非常灯、浴室照明工事	247,720	〃
10 GH清久自家用車(ルーミー)受贈	1,275,921	受贈
11 のぞみ園事務所エアコン入れ替え	199,100	自己資金
計	5,649,193	

(3) 働きやすい職場作り

- ア 4月より年間休日を107日から113日に増やし、ワークライフバランスの実現に向けた職場作りを進めました。
- イ 全事業所で「年次有給休暇の5日間取得」を達成しました。また、できるだけ連続した休暇が取れるようにしました。
- ウ 久喜けいわでは職員が休憩できる場所を確保し、必要な物品を揃えました。他の事業所でも時間差で休憩を取る等して、できるだけ職場内でも休める環境を作りました。

(4) 人材採用

- ア 新型コロナウイルス感染防止のため、実習生の受け入れは制限しました。個別に施設見学の申込みや求人への応募があり、新卒2名を採用することができました。
- イ ホームページ内に新しい人材採用のページを作り、求人サイトと連携するようにしました。フェイスブックやインスタグラムといったSNSでの情報発信もこまめに行い、それらを見られて求人に応募される方が増えました。
- ウ 学校訪問や合同面接会への参加は、新型コロナウイルスで開催が中止となり実施できませんでした。

(5) 人材育成

- ア 予定していた研修等が中止になることが多く、研修を体系化し、それに基づいて階層別に研修を受講することはできませんでした。法人内部では「新任職員研修」「中堅職員研修」「主任主査研修」を実施しました。
- イ 国家資格取得のための経費の一部助成は、令和2年度中にまとまりませんでした。今後、制度化して職員に周知していきます。
- ウ 人事評価を12月の賞与分と次年度の昇給分の処遇に反映しました。まだ評価者や事業所での偏りも見られるため、評価の精度を上げていきながら、職員のやる気につなげていきます。

(6) 法人本部機能の再構築

- ア 世代交代に向けて本部職員の配置を見直しました。
- イ 幹部職員にもテーマを掲げて考える機会を多く作り、経営意識の向上に努めました。

(7) 経営会議等の開催

- ア 主査以上が参加する集合しての幹部会議は6回開催しました。新型コロナウイルス感染防止のために集合できなかった時も書面で連絡事項等を発出し、状況の共有化を図りました。
- イ その他、課題を協議する意見交換会を開催したり、個別に事業所同士で協議する場を作ったり、リモート会議を行う等して話し合いの工夫を行いました。

(8) 災害対策の充実強化

- ア 危機管理プロジェクトを設置し、入所・入居部会と通所部会に分けて活動しました。それぞれ現状の確認や防災マニュアルの見直し等を行いました。今後も災害に備えて継続的に活動していく必要があります。
- イ 防災用具や発電機を使った訓練までは行えませんでした。事業所の中には定例の避難訓練の他に水害も想定した避難訓練を実施しました。

(9) 虐待防止への取り組み

- ア 新型コロナウイルスの影響もあって、法人全体で虐待防止活動を行うことは難しかったですが、虐待防止推進部会を中心に各事業所で虐待防止のセルフチェックリストや研修を実施するよう進めました。
- イ 今後も虐待防止マニュアル等の周知徹底を図り、人権意識や権利擁護の視点を高める取り組みが必要です。
- ウ 今まで努力義務だった虐待防止研修の実施や虐待防止責任者の設置が今後義務化される動きもあることで、より虐待防止委員会の機能を充実させて法人全体で虐待防止に努めていきます。

(10) 社会貢献事業の取り組み

- ア 新型コロナウイルスの市中感染が広がったころもあり、地域のニーズ把握まで取り組みを進められませんでした。
- イ 指定緊急避難場所として啓和会の施設を開放することはありませんでした。
- ウ 彩の国あんしんセーフティネット事業は、1件 15,000 円の現物給付の実績がありました。
- エ 久喜市フレンドシップ学級運営委員として職員 5 名の派遣体制を作りましたが、活動はありませんでした。
- オ 新型コロナウイルスの影響で地域行事がほとんど中止となったり、クラブ活動が行えなかったり、ボランティアの声をいただいても感染防止のためにお断りせざるを得ないようなことがありました。その中でも下記のような活動を行いました。

(ア) 行政や地域団体との連携

久喜市障害支援区分認定審査会委員、幸手市障害支援区分認定審査会委員、杉戸町障害支援区分認定審査会委員、宮代町障害支援区分認定審査会委員、久喜特別支援学校評議員、騎西特別支援学校評議員、第 73 区自主防災組織副会長、久喜市地域自立支援協議会委員、久喜市障がい者施策推進協議会委員、フレンドシップ学級委員、サービス管理責任者研修分野別ファシリテーター、埼玉県発達障害福祉協会理事、埼玉県知的障害児・者生活サポート協会監事等。

(イ) ふれあいの家白幡

「ふれあいの家白幡」は、婦人会活動やボランティアの衣類補修など地域で有効に活用していただきました。

(12) 広報活動の充実

ア 啓和会後援会の総会は開催できませんでしたが、広報誌を発行し会員の方に配布しました。

イ 法人のホームページを活動紹介、情報公開、人材確保、利用者確保等で活用しました。

(13) その他

ア 新型コロナウイルスについて

(ア) 新型コロナウイルス感染の発生

令和2年12月17日(木)に久喜市あゆみの郷で利用者3名が新型コロナウイルスに感染していることが判明してから、法人内で以下のように感染が拡大しました。

- ・久喜市あゆみの郷 利用者28名、家族等20名、職員11名
- ・久喜けいわ(入所) 利用者31名(うち、あゆみの郷利用者1名)、職員4名
- ・久喜けいわ(通所) 職員1名
- ・グループホーム 利用者2名(うち、あゆみの郷利用者2名)、職員1名
- ・久喜市いちょうの木 職員1名(感染源不明)

(イ) 新型コロナウイルス施設内感染の収束宣言

令和3年1月15日(金)に最終感染者が療養解除となつてから、その後2週間新たな感染者が発生しなかったため、1月29日(金)をもって施設内の新型コロナウイルス感染は収束と判断いたしました。

(ウ) 今後の新型コロナウイルス対策

令和3年2月4日付、4月21日付、6月22日付で法人全体に新型コロナウイルス対応方針を発出し、全事業所に周知しました。それぞれの事業所で意識して感染防止に努めており、その後は新たな新たな感染者は発生しておりません。

イ 指定管理施設の民間譲渡

久喜市が策定した「公共施設等総合管理計画」では、更新費用を40年間で20%削減するとしており、久喜市の方針として、民間によるサービス提供が可能な公共施設については、市で保有しないという方向になりました。これに基づき、指定管理により障害福祉サービスを提供している施設については、「民間譲渡を推進し、市としてのサービス提供を廃止する」という方向が提示されています。啓和会でも指定管理施設4施設を運営していることから、この久喜市の方針に対応していくために今後協議を進めていきます。

Ⅱ 障害者支援施設 久喜けいわ

令和2年度は、コロナ感染症の対応に追われる1年となりました。埼玉県における緊急事態宣言の発令や、法人内で起きた施設内集団感染により、事業計画に掲げた内容はかなりの部分を変更せざるを得なくなり、ウィルス感染により重度化を進行させてしまった利用者もいるなど、今後の施設運営にも大きく影響を及ぼすこととなりました。

そのような状況の中で実施した事業内容は以下のとおりです。

1 実施事業

(1) 定員と利用率

令和3年3月31日現在

事業名	定員	現員	利用率
生活介護	定員67名	現員69名	97.1%
施設入所支援	定員54名	現員54名	98.6%
就労移行支援	定員6名	現員6名	90.6%
就労継続支援	定員32名	現員40名	102.5%
短期入所支援	定員6名		82.9%

令和2年度の新規利用契約者数

生活介護：2名

就労移行：4名

就労継続B型：4名

(2) 職員体制

職種	人数	備考
施設長	1	
総務課長	1	
主幹	1	
事務員	4	障害者雇用1名
支援課長	1	生活就労兼務
主査	2	生活 就労
主任	6	生活介護・施設入所4名 就労移行・就労継続B型2名
生活支援員	36	生活介護33名 就労移行1名 就労継続B型2名
職業指導員	4	就労移行1名 就労継続B型3名
就労支援員	1	就労移行1名
目標工賃達成指導員	1	就労継続B型1名
清掃、営繕	2	
洗濯、清掃	2	障害者雇用2名
看護師	3	常勤2名 非常勤1名
管理栄養士	2	
計	67	

2 重点実施事項

(1) 権利擁護

ア 虐待防止セルフチェックシートを活用して自己チェックを行いました。

イ 虐待防止推進部会員が中心となり、権利擁護・虐待防止についての意見交換を繰り返し行い、日々の支援を振り返る機会を作りました。

(2) 高齢化、重度化対策

ア コロナの感染拡大に伴い、予防対策を中心とした支援内容が優先となりました。施設内感染の発生後は、感染により重度化してしまった利用者に対し、個々の状態に合わせた医療ケアや介護ケアを実施しています。

(3) 就労継続支援B型の工賃向上

ア 新規の受託作業を2つ増やし、作業手順や設備配置を工夫して効率化を図るなど、工賃向上に努めましたが、コロナ感染症の影響により受託作業の全体量が減り、年間の受託作業収入は令和元年度より100万程度減収となりました。

3 事業報告

(1) 利用者支援

ア 生活介護、施設入所支援

(ア)生活支援マニュアルに沿って、個々の状態に合わせた適切な生活支援に努めました。利用者に対し、「自分でできることを大切にし、できない部分を支援する」という支援の基本を、日々の朝会や会議等で確認し合い支援にあたるよう心掛けました。

(イ)コロナ感染症防止のため利用者の自治会活動は中止しました。利用者の意見を聞き取る機会として一人ひとり個別に時間を作り、コロナ禍でもできる範囲で希望に沿った活動や取り組みができるよう配慮しました。

(ウ)クラブ活動、レクリエーション、外出などの余暇活動は、リスクを避けながらの実施となりました。

<実施した外出等>

月 日	行き先	利用者	職員
主な余暇外出			
7月7日	東武動物公園	5名	3名
7月14日	古代蓮	5名	3名
7月21日	古代蓮	5名	3名
7月28日	キヤッセ羽生	5名	4名
8月18日	杉戸アグリパーク	5名	4名
8月25日	権現堂	5名	4名
9月8日	陶芸教室	5名	3名
9月15日	さいたま水族館	5名	4名
9月29日	東武動物公園	5名	3名
10月6日	むさしの村	5名	4名
10月13日	環境科学	5名	4名
施設内行事			
8月6日	「夏の日2020」花火鑑賞		
10月21日	「ハロウィンパーティー」仮装大会		

上記以外にも、施設内でできる楽しみごととして、テイクアウトでの食事会(寿司、うなぎ、ピザ、各種弁当など)やおやつ作りなどを行いました。

(エ)強度行動障害支援者研修に新規職員を計画的に参加させ、支援の難しい利用者への対応強化を図りました。研修終了後は、個別支援検討会議などで研修

内容を反復する機会を作り、実際の取り組みに生かせるようにしました。

- (オ)バイタル測定の日3回実施や状態変化のチェックなどを細やかに行いました。体調に変化が見られた時には速やかに受診し、結果によっては隔離対応がすぐできる体制も作りました。
- (カ)コロナ感染症防止のため、作業療法士の訪問相談は中止しました。
- (キ)・介護用ベッドの適切な使用方法やおむつ交換、清拭のノウハウなど、介護技術についての話し合いを重ね、利用者の状況に応じた対応強化を図りました。
 - ・重度化により嚥下機能が低下している利用者の状態像を把握するため、嚥下専門医に来院してもらい、施設内で内視鏡検査を実施しました。食事の仕方や食形態などについてのアドバイスも受けましたが、ムース食やペースト食など、一人一人の状態にあった食事提供がどこまでできるかが今後の課題となっています。
- (ク)地域移行の取り組みとして、利用者男女1名ずつがグループホーム利用を体験しました。宿泊を伴った体験利用のほか、入浴と夕食のみの体験など、それぞれにあった利用方法で行いました。年間をとおして実施する予定でしたが、コロナ感染症防止のため年度途中で中止しました。

イ 就労移行支援

- (ア)施設内作業や企業実習では、就労に大切な挨拶や「報・連・相」を習得できるよう、個々に働きかけました。
- (イ)利用者1名が、リレーションシップセンター久喜を利用して就労アセスメントを受けました。利用者の適性を知る機会となりましたが、コロナ感染症の影響もあり、一般就労に繋げることはできませんでした。
- (ウ)隔週木曜日の午後に座学の時間を設け、求人票の見かたや履歴書の書き方などを学ぶ機会としました。また、就労支援センターの職員と連携し、模擬面接も実施しました。
- (エ)年度内に利用者2名が一般就労しました。就労に向けた通勤支援、面接同行を行い、就労後には巡回や本人面談を行って職場定着に努めています。
- (オ)相談支援センターと連携し、就労と生活の両面において支援を行いました。

ウ 就労継続支援B型

- (ア)・国のコロナ対策で学校が休校となり、給食が中止となったことで味噌の注文も一時ストップしましたが、年間では学校給食の発注数は例年どおりとなりました。また、イベント数が激減した影響で約3,000パック分の味噌の在庫を抱えることになりましたが、他法人施設や保護者、職員に購買協力してもらうことで在庫を捌くことができ、味噌の年間売り上げもほぼ例年どおりとなりました。
 - ・受託作業量やイベント数が減少したことで作業収入が減り、月平均17,000円を目標としていた作業工賃は、12,800円程度となりました。
- (イ)作業室内の感染防止と、利用者同士のトラブル回避の両面を解決する策として、作業室内の整理を行ってスペースを作り、パーテーションを設置しました。動線を確保したことで作業効率の向上にもつながりました。
- (ウ)食品加工に携わる職員を育成するため、手順書や衛生管理表などを作成して

わかりやすく指導しました。年度内に就労支援課職員全員が作業に関われるようになりました。

- (エ)新たにけいぞ味噌の在庫チェック表や棚卸計画を作り、管理の徹底を図りました。食品管理の強化としては、食品表示法に基づいたラベル表記への変更と、微生物検査による科学的、合理的根拠に基づいた賞味期限の設定を行いました。
- (オ)コロナ感染症防止のため、クラブ活動や行事はほとんど中止としましたが、利用者の楽しみごととして、土曜開所日に小イベントや近場の小旅行を企画し、感染対策を行ったうえで実施しました。

<令和2年度 土曜開所活動一覧>

月	就労移行	就労継続B型	月	就労移行	就労継続B型
4月	作業活動		10月	作業活動(第二弾:小旅行)	
5月	作業活動		11月	作業活動(第三弾:小旅行)	
6月	なし		12月	作業活動	
7月	作業活動		1月	新型コロナウイルスのため中止	
8月	作業活動後、夏のミニ模擬店		2月	作業活動(第四弾:小旅行)	
9月	作業活動(第一弾:小旅行)		3月	なし	

- ※小旅行 第一弾: 渋沢栄一記念館&ふっかちゃんミュージアム
- 第二弾: 羽生水族館&羽生PA鬼平江戸処
- 第三弾: 幸楽苑食事会
- 第四弾: しびらきファームいちご屋のいちご狩り

エ 虐待防止対策

- (ア)虐待防止マニュアルを職員に配布し、内容を読み込むことを周知しました。コロナ感染症防止のため、会議等での読み合わせは行いませんでした。
- (イ)セルフチェックシートによる振り返りと虐待防止に関するアンケートを実施しました。アンケート結果をもとに各棟で話し合い、自身の支援や対応の振り返りを行いました。
- (ウ)身体拘束に関しては、ヘッドギアやベッドの柵など、利用者の安全確保のために実施しているケースについて、ガイドラインの内容や適切な対応が行えているかなどの確認を行いました。
- (エ)虐待防止推進部会員が中心となり、権利擁護についての意見交換や振り返り作業を繰り返し行いました。

(2) 働きやすい職場づくり

ア モチベーションの向上

- (ア)キャリアパスを通じ職員面談を行いました。各棟の上司と面談し、日々の業務を振り返る機会としました。
- (イ)毎月勤務表作成前に公休日について職員から希望を聞き、できる限り都合に合わせた休みがとれるよう配慮しました。

イ 業務改善

- (ア)業務の見直しについてはコロナの感染予防が最優先となりました。感染予防のための業務が増えた分、日課の内容や実施時間帯などを見直して職員配置を変更するなどしました。

(イ)夜間帯対応の職員配置を1名増員し、業務の負担軽減を図りました。

ウ ワークライフバランス実現に向けた休暇の取得促進

(ア)希望する職員には3日以上連休取得ができるように実施していましたが、コロナの施設内感染が発生した後は実施ができず、希望者全員に対応することはできませんでした。

エ 環境改善

(ア)休憩室整備の担当者を決め、職員希望にそった休憩場所が作れるよう配慮しました。自立棟2階の和室を利用し、ポットやTV、マッサージグッズなどを整えてリラックスできる空間としました。

(3) 人材育成

ア 実施、参加した主な研修

内部	新任職員研修、障害支援区分認定調査について、虐待防止研修、意思決定支援について、支給決定とサービスについて、報酬単価と事業運営について
外部	新型コロナウイルス感染症対策研修、接遇研修、風水災リスクマネジメントセミナー、虐待防止研修、摂食・嚥下研修

(ア)外部研修については、コロナ感染症の影響で中止となったものが多く、研修参加の機会は減りました。内部研修は密にならないよう少人数で行ったり、リモートでの開催としましたが、例年より回数は減っています。

(イ)各棟主任が中心となり、各棟での課題点や利用者の個別支援についての意見交換を繰り返し行いました。

イ 新任育成プログラム

(ア)未経験者に対しては、法人の理念や障がい支援についての基本的な考え方などについて、丁寧にわかりやすく指導するよう心掛けました。新卒者を中心とした新任研修では、事業所紹介DVDを作成し、各担当者による事業所説明を行いました。

(イ)所属棟の主任が中心となり、定期的に業務の振り返り面談を実施しました。採用後3か月目には施設長による個別面談を実施し、仕事に対する思いや困りごとなどについても相談できるようにしました。

(4) リスク管理

ア 健康管理

(ア)・通常の健康管理、病気予防に加え、新たに作成したコロナの感染予防対策を実施した結果、インフルエンザや胃腸炎などの感染症の発症はありませんでした。

- ・密を避けるため、今年度の健康診断は3回に分けて実施しました。
- ・協力医療機関である大和田歯科医院に協力を頂き、初めての試みとして、施設内での歯科治療を実施しました。拒否が強く通院での治療が困難だった利用者が治療を受けることができ、利用者の歯の健康増進につながりました。
- ・毎年実施している歯科検診・ブラッシング指導は、コロナ感染症予防のため

め、久喜市歯科医師会と相談のうえ中止としました。

イ 災害対策

(ア)地震・台風・水害を想定した避難訓練を行いました。水害を想定した訓練では、生活棟利用者も自立支援棟2階に避難することで、避難スペースや車椅子利用者の避難方法、避難時の職員配置など、今後の課題点が明白になりました。

ウ 環境整備

(ア)・コロナ感染症の予防対策として行っていた消毒や定期的な換気は、棟内の臭い軽減にもつながりました。

・男性棟浴室の壁の一部張替えを行いました。コロナ禍での業者による修繕作業であり、また、今後の施設建て替えも視野に置いて簡易な修繕に留めました。

(イ)軽微な修繕については現場で早期対応し、利用者の安全を図っています。

エ 個人情報管理

(ア)利用者・職員などの個人情報に関する取扱いについては、鍵やパスワードなどの使用を徹底して保管管理するほか、職員同士の申し送り時にも細心の注意を払うことを周知徹底し、意識の向上に努めました。

(5) 地域交流

ア 地域社会との交流

(ア)コロナ感染症の予防対策により、啓和まつりは中止となりました。

(イ)コロナ感染症の予防対策により、地域行事もほとんどが中止され、人との接触を避けるため、地域交流はほとんどできませんでした。

(ウ)コロナ感染症の予防対策により、実習生の受け入れは中止しました。ボランティア活動の受け入れは、清久婦人会さんによる除草作業の1回のみとなりました。

(6) 事業運営

ア 利用率の目標値

(ア)施設入所の利用率は98%でした。

(イ)就労移行の利用者を2名就職に結びました。また、就労支援センターとの合同会議を定期的に行い、新規の利用者を2名確保しました。

(ウ)生活介護は新型コロナウイルスの影響で通所を自粛する利用者もいましたが、概ね98%の利用率となりました。就労継続B型は、定員以上の利用があり、100%超、就労移行は90%の利用率となりました。

(7) その他

コロナ感染症の主な防止対策として、以下の内容を実施しました。

- ・1日3回の検温、手指消毒、施設内の消毒と換気の徹底
- ・マスク、フェイスシールドの着用の徹底
- ・入所利用者と通所利用者との活動場所の変更
- ・新規短期入所、日中一時支援の受け入れ制限

- ・ ボランティア、実習生の受け入れ制限
- ・ 帰宅や面会の制限
- ・ 活動内容の変更
- ・ アクリル板やカーテン等での仕切り
- ・ 事業所間の行き来の制限
- ・ 職員の勤務体制の変更
- ・ 埼玉県総合リハビリテーションセンターの医師および感染管理認定看護師による訪問指導の受入れ
- ・ 感染を想定したゾーニングや対応シミュレーションの実施 など

できる限りの対策を講じましたが、12月17日、通所事業所を併用利用している利用者が感染したことで施設内の集団感染へと拡大しました。

久喜けいわの感染者数は、利用者31名、職員5名（生活支援課4名、就労支援課1名）となり、そのうち利用者1名は、感染後に在宅酸素療法が必要となったため、病院からの使用方法や注意事項の指導を受け、機材を導入して対応にあたっています。

感染者が最も多かった1か月間は、利用者の生活場所を、生活棟、自立棟、機能訓練棟、作業棟の4か所に分け、それぞれの行き来を制限して隔離対応し、他事業所職員の応援を受けながら夜勤者を6名に増員して支援にあたりました。

コロナの集団感染の収束には、最初の感染発生から2か月以上の時間を要しましたが、保健所をはじめとする関係機関、病院の先生や看護師さん、保護者の皆様などのご協力により、感染者全員が回復することができました。

グループホーム清久 事業報告

令和2年度事業計画に基づいて以下の事業を行いました。

1 実施事業

(1) 定員と利用率

令和2年3月31日現在

事業名	定員	利用率
共同生活援助	定員44名	93.2%
短期入所	定員1名	49.5%

(2) 入居者の状況

ア 定員内訳

()カッコは短期入所の人数

	清久	ハイツ	上清久	こがらい	おぎそね	こすもす	しらはた	うちや	こぎそね	合計
定員	7名	3名	4名	7名	7名	4名	7名	4名 (1名)	1名	44名 (1名)
現員	4名	3名	4名	7名	6名	4名	6名	4名 (1名)	1名	39名 (1名)

イ 男女比・年齢構成

	19歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳～69歳	70歳～80歳	80歳以上	合計
男性	2	7	3	8	2	3	1	26
女性	0	0	1	4	4	4	4	13

ウ 平均年齢

	平均年齢(男女別)	平均年齢(全体)
男性	50歳	54.2歳
女性	63歳	

エ 障害支援区分

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計
男性	0	6	3	11	4	2	26
女性	0	0	4	5	4	0	13
計	0	5	7	16	8	2	39

オ 療育手帳・身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳の所持状況

	療育手帳					身体障害者手帳				精神保健手帳		
	㉠	A	B	C	なし	1級	2級	3級	なし	1級	2級	なし
男性	1	7	14	3	1	0	1	1	24	1	2	23
女性	1	8	3	1	0	0	0	1	12	1	1	11
計	2	15	17	4	1	0	1	2	36	2	3	34

カ 日中活動場所

< 一般就労 >

会社名	仕事内容	人数
(株)なとり	食品加工・荷物運び	2人
(株)ウィズウェストジャパン	リサイクル選別	2人
(株)松勘工業	武道具生産	1人
(福)久喜けいわ	洗濯・清掃・入浴補助	1人
(株)流通サービス	物流・箱出し	2人
(株)吉野家ホールディングス	食肉加工	1人
(株)アイワイフーズ	食品製造	1人

< 福祉事業所 >

事業所名	サービス内容	人数
久喜けいわ	生活介護	4人
久喜けいわ	就労継続B型	14人
コムラード	就労継続B型	3人
久喜市 あゆみの郷	生活介護	3人
久喜市 あゆみの郷	就労継続B型	1人
久喜市 いちょうの木	生活介護	1人
宮代町 ひまわりの家	生活介護	1人
白岡市 めぐみの里	就労継続B型	1人
宮代町 アバンティ	就労移行	1人
久喜市 偕楽荘	高齢者ディサービス	1人(久喜市あゆみの郷と併用利用)
久喜市 鶴寿荘	高齢者ディサービス	2人(久喜けいわと併用利用)

(3) 職員体制

職 種	配置人数	備 考
所長	1	サービス管理責任者兼務
生活支援員	9	サービス管理責任者兼務(1名) 計画相談兼務(1名) 久喜けいわ生活支援員兼務(1名) (常勤6名、非常勤3名)
世話人	28	久喜けいわ生活支援員兼務(2名) 久喜けいわ事務員兼務(1名) 夜勤勤務のみ(8名) (常勤3名、非常勤25名)
計	38	

2 重点実施事項

(1) 高齢化の支援・環境整備

障害福祉サービスだけでなく、高齢者によりよい支援が提供できるよう介護保険サービスを併用し、手厚い支援を行うことができました。

また、高齢者施設の職員やケアマネージャーからアドバイスをもらい、手すりの場所を検討したり補助用具を設置したりと、日常生活が過ごしやすくなる環境を

作りしました。

(2) 権利擁護、虐待防止の意識向上

虐待防止チェックリストを活用し、日々の支援を振り返りました。チェックシートを活用することで、権利擁護や虐待防止に関する意識が向上しました。

(3) 緊急時の対応

勤務職員や世話人に対して、夜間や利用者の急変、災害等の緊急時にも慌てぬよう連絡体制を明確化し、緊急時にも迅速に対応できるよう整備しました。

(4) 新たな賃貸グループホーム「しらはた」(定員7名)の開設準備

老朽化が激しかった「仁丁町」を2月末で閉鎖し、3月より7人ホーム「しらはた」を開設しました。しらはたの開設により定員を3名増やし、41名から44名の定員となりました。

3 事業報告

(1) 利用者支援

ア 地域生活者としての自立支援

- (ア) 個々の利用者のニーズに応えられるよう、意見や要望を聞き取る工夫を行い、日々のコミュニケーションを大切に支援しました。普段なかなか自分の気持ちを伝えられない人も時間をかけることにより、徐々に心を開いてくれるようになり、笑顔で話をしてくれるようになりました。
- (イ) 金銭を自己管理できる人に対しては、一ヶ月の収入に対して使える金額を明確にし、計画的にお金を使うことを学びました。一ヶ月のお金を使いすぎ困ってしまった人に対しては、どうしてお金が足りなくなってしまったのか原因を一緒に考え、次に困らないよう話をしました。
- (ウ) 単身生活を目指し、サテライト型住居で練習している人に対して、毎週アパートを訪問し、困ったことやどうすれば生活しやすくなるか一緒に考えました。また支援センターの協力も得ながら、本人を含めた話し合いを行うことにより、課題に対しても迅速に対応することで、本人の安心にも繋がりました。実際サテライト型住居で生活してみると、ホームでは起こらなかった個人と地域住民との課題が発見でき、職員も地域移行の難しさを学ぶことができました。
- (エ) 家族と離れ、自分の収入だけでは生活が難しい人に対して行政と相談し、法的な支援を受け、生活がしやすくなる方策を考えました。切り詰めた生活の中でも、生活の中での喜びや生きがいを模索し、一緒に今後について話し合いました。

イ 健康管理

- (ア) 12月にホームの利用者2名が新型コロナウイルスに感染してしまいました。日中通所している事業所で新型コロナウイルス感染者の濃厚接触者が通所していたとの情報を受け、発熱等の症状はありませんでしたがPCR検査を受けたところ陽性の結果が出ました。幸い2名以外の感染拡大は抑えられましたが、感染力の強さを思い知らされました。
- (イ) 今年度は感染症対策とも相まって、マスクの着用・手指消毒・デブールの飛沫拡散防止フィルムの設置など、感染リスクを下げる環境を整えました。

また 1 日 2 回の検温やホーム入室時の手指消毒など、今まで以上に気を使いながら行いました。

- (ウ)入居している利用者全員が健康診断を受けました。有所見者に対しては嘱託医に相談し、必要に応じて病院に受診しました。傾向として、中高年の中性脂肪やコレステロールなど、肥満気味の人に対しての指摘事項が目立ちました。
- (エ)食事面に関しては、必要に応じて看護師や管理栄養士に食事のアドバイスをもらい、栄養バランスの良い食事提供に努めました。
- (オ)生活習慣病を予防できるように、公園に出かけウォーキングをする等適度な運動ができるように努めました。

ウ 余暇活動の充実

- (ア)今年度は新型コロナウイルス流行に伴い、外出やボランティアの協力、また少人数の旅行は自粛したため、取り組むことはできませんでした。利用者や家族にも地域の感染状況を説明し、不要不急の外出等は避けるよう理解を求めました。
- (イ)密を避けるため、ホーム間での集まりも制限せざるを得ない状況が続きました。今までには体験したことがない経験により、戸惑いを見せる利用者もいましたが、個々の楽しみを見つけることにより、新しい生活様式に馴染んでいくことができました。

エ 高齢化対策

- (ア)男性 1 名、女性 2 名が高齢者のデイサービスを利用し、レクリエーションや機能訓練など行いました。また入浴のサービスもあり、利用者からも「広いお風呂で、みんなでわいわい楽しい。」と喜びの声が聞かれました。年齢も 70 歳を過ぎ、作業や仕事以外でのふれあいの場ができたことにより、新しい生きがいを見つけることができました。
- (イ)通院が難しい人には、訪問介護を週 2 回利用し、健康管理に努めました。看護師による定期的な訪問により、専門家からのアドバイスをもらいながら日常の支援に活かし、健康を保つことができました。

オ 虐待防止対策

- (ア)会議や日常の支援の中で、利用者の障害特性について学ぶ機会を設けました。なぜこのような行動や発言をするのか、またその対応方法を話し合うことにより、その人を理解することができました。
- (イ)職員が日々の支援の中で悩みを抱え込まないように、必要に応じて職員間で相談する機会を設けました。また業務上でのストレスを溜め込まないように、相談できる環境作りに努めました。

カ 関係機関との連携

- (ア)定期的に支援センターとの会議を行い、情報の共有化を図りました。ホームだけでは解決できない課題を支援センターに協力を仰ぐことにより、多方面からの支援を行うことができました。特に会社関係に関しては専門のスタッフから情報を聞くことにより、ホームでは知りえなかったことも知ることができ、支援の幅が広がりました。
- (イ)今年度は新型コロナウイルス流行のため、利用者の職場等に立ち入ることが

難しく、巡回等を行うことができませんでした。

(2) 働きやすい職場づくり

ア 業務の整理

- (ア)業務日誌ソフトを導入したことにより、記録の整理が簡略化され、大幅な労務時間の短縮につながりました。
- (イ)生活支援員と世話人の業務を明確化することにより、仕事の偏りが減り、円滑に業務が行えるようになりました。

イ ストレスの軽減

ひとりで仕事を抱えこまないよう、面談を上司や同僚との意見交換を行い、課題の解決や業務の改善を行いました。

ウ 年次有給休暇の取得促進

年間で計画的に年次有給休暇を組み込むことにより、生活支援員全員が5日の年次有給休暇を取得することができました。

(3) 人材育成

ア 今年度は新型コロナウイルス流行により、外部研修の中止が相次ぎました。また各ホームでの会議も密を避けるため行わず、個々での相談や説明に留まってしまいました。そのため紙面を配布し、権利擁護や感染予防対策などの勉強を行いました。

イ 研修実績

<法人内部研修>

研修名	内容	日時	場所	参加者
JOC防災研修	災害時の被害等への危機管理	11/6	リモート	大森
決定支援	意思決定について	11/25	機能訓練棟	大森 相馬 寒河江 齋藤弘 小山 齋藤由 平良
主任主査研修		12/4	リモート	相馬

(4) リスク管理

ア 危機管理の徹底

- (ア)公共機関を利用し通勤等をしている人に対しては、地域の新型コロナウイルス感染状況を確認しながら、密な通勤ルートや通勤方法を避ける方法を検討し、感染防止に努めました。
- (イ)今年度は新型コロナウイルス感染防止の観点から、久喜市の防災訓練も中止になり、地域の訓練に参加することはできませんでした。
- (ウ)久喜消防署立会いの下、ホームでの総合避難訓練を行いました。通報から避難、水消火器での消火訓練を行い、利用者・職員ともに防災に対する意識を高めました。
- (エ)久喜市の防災マニュアルに基づき、地震・風水害の災害マニュアルを作成しました。緊急時にも慌てず利用者自身が身を守れるよう、定期的な訓練を行い、備えたいと思います。

(カ)台風や地震による停電に備え、各ホームにランタンを準備しました。特に夜勤者のいないホームには、利用者自身が身を守れるよう、職員と一緒にどのように行動すればよいか学ぶ機会を作りました。

(キ)職員が毎日各ホームを巡回し、火の始末の確認を行い、火災の予防に努めました。

(ク)自転車に乗っている人に対しては、自転車保険の加入やヘルメットの装着を推奨し、万が一に備えました。

イ 守秘義務と個人情報保護

利用者の個人情報が取扱いに十分注意をし、記録等は鍵のかかるロッカーに保管し、パソコンや携帯電話はセキュリティをかけ漏洩防止に努めました。

(5) 地域交流

今年度は新型コロナウイルス感染防止の観点から、地域行事は中止が目立ち、参加の自粛をせざる負えない状況でした。そのかわり普段から道での挨拶などを積極的に行い、接点を持つよう心掛けました。

(6) 事業運営

ア 利用率の向上

新型コロナウイルス感染防止対策として、短期入所及び体験利用を制限したため、利用率は伸びませんでした。

イ サテライト型住居の設置

4月より、単身生活の希望者1名に対してアパートの一部をサテライト型住居とし、単身生活に向け生活をスタートしました。

相談支援センター 事業報告

令和2年度事業計画に基づいて以下の事業を行いました。

1 実施事業

(1) 事業及び職員体制

令和3年3月31日現在

	事業名	実施主体	職員体制
生活に関わる事業	基幹相談支援センター事業	久喜市	1名(専任)
	相談支援事業(委託、一般、特定)	久喜市	7名(兼務8名)
	障害児等療育支援事業	埼玉県	2名(兼務)
	巡回支援専門員整備事業	久喜市	3名(兼務)
	彩の国あんしんセーフティネット事業	埼玉県社協	2名(兼務)
就労に関わる事業	久喜市障害者就労支援事業	久喜市、白岡市、宮代町	3名(兼務)
	障害者就業・生活支援センター事業	国(就業)	5名(専任)
埼玉県(生活)		2名(専任兼務各1名)	

(2) 実績件数

ア 相談支援実績

	生活支援	就労支援	総数
登録者数(人)	499	940	1,439
相談支援件数(件)	1,538	4,405	5,943
職員一人あたりの年間相談支援数(件) ※職員数14名			424

イ サービス等利用計画・モニタリング作成数 (件)

サービス等利用計画	成人	127	児童	46
モニタリング	140			

2 重点実施事項

(1) 生活支援における地域生活支援の充実

グループホーム・ヘルパー事業所等、市内の関係機関と連携しながら相談支援を行うことで、家族が体調不良等の際にも地域内での生活を維持できるよう支援しました。

(2) 就労支援における職場定着率の向上

昨年度の職場定着率は約80%でした。(前年度の職場定着率は85%)。定着率が下がった要因としては、家庭事情による離職者がいた事や、精神面が安定せず離職した方が多く見られたためです。今後はより一層、相談者の生活面を含めたアセスメントを深め、必要に応じて精神科受診への同行等も含めた支援を行うことで、職場定着率の維持・向上に努めていきます。

(3) 良好な職場雰囲気づくり

主任による職員との個別面談および毎月1回の主査・主任打合せにおいて各職員の状況を共有し、意図的な声かけや業務量調整を行うことで職員の負担軽減と良好な職場環境づくりに努めました。

3 事業報告

(1) 利用者支援

ア 基幹相談支援センター事業（久喜市基幹相談支援センター）

- (ア)久喜市内の相談支援事業所および新規開設のサービス事業所を訪問するなかで専門的な助言・指導、地域課題の整理を行いました。コロナ禍の影響で、例年より電話での支援が増えています。
- (イ)自立支援協議会の事務局を行政と共に行い、定例の会議や専門部会を行いました。研修については感染防止のため大規模なものは控え、感染対策を講じて小規模で可能な範囲で実施しました。
- (ウ)来年度も感染防止対策を講じつつ自立支援協議会の取り組みを継続することで、地域の相談支援体制の維持・向上に努めて行くことが必要です。

<支援種別>

(件)

電話相談	外来	関係機関訪問	個別会議参加	指定特定巡回
102	5	21	25	30

イ 相談支援事業（久喜市障がい者生活支援センターきらら）

- (ア)久喜市の委託を受けて相談支援事業を行いました。
- (イ)相談の傾向として、医療機関から退院する利用者の生活環境についての相談、短期入所・グループホームの利用に関する相談などが増加しています。
- (ウ)課題としては、コロナ禍の影響で受入れを中断しているサービス事業所が多いこと、重度対応のグループホームの不足等が見られました。

<支援種別>

(件)

訪問	外来	同行	個別会議	関係者会議
618	345	321	58	196

ウ 障害児等療育支援事業、巡回支援専門員整備事業（久喜市障がい者生活支援センターきらら）

- (ア)保育園、幼稚園、小・中学校を巡回し、保育士・教員に対して、発達に遅れのある児童への指導方法や環境調整について助言を行いました。
- (イ)相談の傾向として、発達障害および愛着障害のある児童への接し方に関する相談が多くありました。放課後等デイサービス事業所の増加により、関係機関での連携がより一層、必要となっています。

<支援種別>

(件)

訪問療育	外来療育	施設への指導
1046	212	158

エ 市町村障害者就労支援事業（久喜市障がい者就労支援センター）

障害者就業・生活支援センター事業（埼玉葛北障害者就業・生活支援センター）

- (ア)主に利根保健福祉圏域（7市2町）に住んでいる障害のある方の就労相談及び就労支援を行いました。コロナ禍の影響で、新規就職者数および実習者数は前年度より減少しています。
- (イ)相談者を障害種別にみると、精神障害・発達障害の方が多く見られました。また、相談者は体調面や生活面、家族環境等において不安定なケースが多く、仕事に向けた訓練と共に、行政や相談支援事業所、医療機関と連携しての生活面のフォローが必要となっています。

(ウ) 毎月2回の定期ミーティングにて各職員の企業訪問・利用者支援の状況を共有し、必要な支援を多角的に検討することで、職場定着率の向上に努めました。

< 支援種別 >

(件)

来所相談	電話相談	職場訪問	他機関訪問	新規就職者	実習者
467	2547	642	308	18	28

< 登録者内訳 >

(人)

	令和2年度	令和元年度
身体障害	76	74
知的障害	537	534
精神障害	327	318
合計	940	926

< 新規就職者内訳 >

(人)

	令和2年度	令和元年度
身体障害	3	2
知的障害	7	13
精神障害	8	12
合計	18	27

カ 虐待防止対策

(ア) 職員会議の中で、相談支援の中で生じるリスクのある虐待・権利侵害に関する事業所内研修を行い、意識向上を図りました。

(イ) 自立支援協議会内の権利擁護プロジェクトに主体的に参加し、地域の障害児者の虐待防止について行政・関係機関と連携し、問題解決に努めました。

(2) 働きやすい職場づくり

ア 毎月1回の主査・主任打合せにおいて生活・就労各事業の業務進捗状況および各職員の業務負担状況等を確認し、業務負担が過重となっている役割については複数担当をつける等、整理しました。

イ 職員個々が悩み・心配事を一人で抱え込むことが無いよう、座席配置にも留意しながら職員同士で日常的な声掛けを行える体制を、ミーティング・個別面談を通じて構築しました。

ウ ゴールデンウィークやお盆等には早期の段階で出勤当番を決める事で各職員が休みを取りやすい体制を組みました。それにより、ほぼ全職員が年間5日以上上の年次有給休暇を取得しています。

(3) 人材育成

ア 毎月1回、事業所内で事例検討会を行うことで、職員の知識と技術の向上に努めました。

イ 各種外部研修については、コロナ禍の影響から例年に比べて限定的な参加となっています。参加に当たってはフェイスシールド等を使用し感染対策を講じたうえで参加しています。

ウ センター内にて新入職員の育成体制を強化するため、これまでの人材育成プランを見直し、より精度の高いマニュアルを作成しました。

< 参加研修 (一部) >

研修名	主催	日時	場所	参加者
市民後見人講座	久喜市社会福祉協議会	9/2	ふれあいセンター久喜	近藤

相談支援基礎講座	埼玉県相談支援専門員協会	9/6他	ウエスタ川越他	近藤
相談支援従事者初任者研修	埼玉県	10/2他	春日部市民文化会館	袴田
障害児等療育支援事業連絡会	埼玉県	11/19	さくらめいと	新井、大貫
主任相談支援専門員研修	埼玉県	1/13他	浦和合同庁舎他	近藤

(4) リスク管理

- ア 利用者記録等はすべて鍵付きのロッカーで保管し、パソコン・携帯電話にもすべてパスワード設定をする等、個人情報漏洩防止に努めました。
- イ 利用者や関係機関から苦情等があがった際には真摯に対応するとともにその原因を検証し、同様の事が生じないように全体でも共有しました。
- ウ 公用車の管理担当者を2名配置して安全点検に努めるとともに、事業所内にて安全運転講習を実施することで、安全運転の意識向上を図りました。

(5) 地域との連携

- ア 利用者が地域の中で幅広いサービスを選択できるよう、圏域内の関係者・相談員と日常的に連携をとりました。
- イ 緊急・困難なニーズに対しても対応出来るよう、日頃から地域の各事業（地域自立支援協議会等）に参加し、ネットワークを広げました。

(6) 事業運営

- ア 事業計画について年度当初に全職員に周知し、実績向上への意識を共有したうえで事業を運営しました。
- イ 毎月の印刷コスト増減を全職員で共有し、大幅な増額があった際には原因を検証し、対応策を検討することで経費削減に努めました。

(7) その他

- ア あんしんセーフティネット事業については、他制度の充実により年々件数が減少傾向にあり今回は支援依頼0件でした。地域の各関係者と状況を共有し、今後もいざという時に支援に入れる体制を維持する方向性を決めました。

障害者生活支援センターきよく 事業報告

令和2年度事業計画に基づいて以下の事業を行いました。

1 実施事業

(1) 利用者状況

令和3年3月31日現在

事業名	対象利用者
特定相談支援・障害児相談支援	236名

(2) 実績件数

ア 指定特定相談支援（成人）

サービス等利用計画	134件
モニタリング	357件

イ 指定障害児相談支援（児童）

サービス等利用計画	0件
モニタリング	0件

(3) 職員体制

職種	人数	備考
所長	1	正規職員（法人内他事業所兼務）
相談支援専門員	5	正規職員（専任）1名 正規職員（法人内他事業所兼務）4名
合計	6	

2 重点実施事項

(1) 相談支援の知識と技術の向上

新型コロナウイルスの感染防止を考慮し、相談支援専門員全員が集まって取り組むことは控えましたが、所長と専任の相談支援専門員を中心に久喜市相談支援連絡会や他機関の事例の振り返り、ケース検討などを通して、知識と技術の向上に努めました。

(2) サービス等利用計画とモニタリング報告書の質の向上

利用者や家族、関連する事業所から聞き取りした内容を整理し、必要に応じて他の相談支援専門員に相談して、サービス等利用計画やモニタリング報告書の質が向上するように取り組みました。

3 事業報告

(1) 利用者支援

ア 利用者、家族の意向を聞き取り、利用者の身体状況、心理状況、取り巻く環境、生活歴など客観的な情報を整理し、ニーズを抽出しました。

イ アセスメントの結果に基づき、適切な障害福祉サービスの組み合わせについて検討し、サービス等利用計画書を作成しました。

ウ 一定期間ごとに利用者、家族、関連する事業所から聞き取りをし、モニタリ

ング報告書を作成しました。

- エ 利用者の心身の状況や希望に応じて、法人内他事業所や関連する機関（各市町、他法人の事業所）のサービスが利用できるように計画を作成しました。
- オ 職員セルフチェックリストの活用や障害者虐待防止・権利擁護研修（オンライン）を受講し、権利擁護に対する意識を徹底しました。

（２）働きやすい職場づくり

- ア 計画作成が円滑に進められるように、各市町のケースワーカーや他事業所長、サービス管理責任者と連携しました。
- イ 専任職員を1名配置したため、兼務職員の担当者数を減らして対応することができました。
- ウ 相談支援専門員の新規受講や現任研修は、新型コロナウイルスの影響で研修が実施されませんでした。

（３）人材育成

- ア 久喜市相談支援連絡会に出席し、市内の関連事業所と様々な情報を共有したり、ケース検討などを通して、知識と技術の向上に努めました。
- イ 下表の通り、研修に参加しました。

日付	研修名	主催者名	参加者名
3月29日	障害者虐待防止・権利擁護研修 (オンライン)	(有)プログレ総合研究所 (埼玉県)	山崎

（４）事業運営

- ア 利用者の提供される福祉サービス等が特定の種類又は特定の福祉サービス事業所等に偏ることのないように、ケースの特性や各事業所の状況に応じて対応しました。

（５）リスク管理

- ア 相談者から受けた相談や個人情報取り扱いに充分注意をし、記録等は鍵のかかるロッカーに保管し、漏洩しないようにしました。
- イ 苦情は特にありませんでしたが、相談者からの要望や関係機関から得た情報は全体で共有し、同じような事案の時に対応できるようにしました。
- ウ 新型コロナウイルスの感染防止を考慮し、電話での説明や聞き取り、郵送による書類の受け渡しを行いました。

ワークハウス コムラード 事業報告

令和2年度事業計画に基づいて以下の事業を行いました。

1 実施事業

(1) 定員と現員

令和2年3月31日現在

事業名	定員	現員
就労継続支援B型	定員20名	28名（男性17名、女性11名）

(2) 利用者の状況

ア 年齢構成

年齢	20～24	25～29	30～39	40～49	50～59	60～	計	平均
男性	1	1	5	8	1	1	17	41.8
女性	1	3	3	1	3	0	11	35.3
計	2	4	8	9	4	1	28	39.2
%	7.1	14.2	28.7	32.2	14.2	3.6		

イ 障害支援区分

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	未判定	計
男性	0	2	3	2	0	0	10	17
女性	0	0	5	0	0	0	6	11
計	0	2	8	2	0	0	16	28
%	0.0	7.1	28.6	7.1	0.0	0.1	57.2	100.0

ウ 精神障害者保健福祉手帳・療育手帳・身体障害者手帳の所持状況

	精神障害者保健福祉手帳					療育手帳				身障手帳	
	1級	2級	3級	なし	計	B	C	なし	計	3級	計
男性	1	5	1	10	17	6	3	8	17	0	0
女性	0	5	1	5	11	1	3	7	11	1	1
計	1	10	2	15	28	7	6	15	28	1	1
%	3.6	35.7	7.1	53.6	100	25.0	21.4	53.6	100		

エ 利用率の状況

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
開所日数	21	18	22	21	18	20	22	19	20	19	18	23	241日
延利用人数	298	253	259	245	201	229	300	242	324	301	287	343	3282人
利用率	71.0	70.3	58.9	58.3	55.8	57.3	68.2	63.7	81.0	79.2	79.7	74.6	68.2%

オ 職員体制

職種	配置人数	備考
管理者	1	サービス管理責任者兼務
生活支援員	1	
職業指導員	1	
目標工賃達成指導員	1	

運転員	1	法人内他事業所兼務
事業計	5	

業

2 重点実施事項

(1) 経営基盤の確立

事業所開設以降、久喜市近隣市町村および障害者支援センターに利用案内ならびに広報の協力要請を継続しております。本年度は16名の体験利用者のうち8名が本利用につながり、利用契約者は28名となりました。新型コロナウイルス感染防止のため通所の自粛を希望する利用者が5名おりましたので、在宅支援を実施して利用率が落ち過ぎないようにしました。利用率は年度末現在で74.6%です。

3 事業報告

(1) 利用者支援

ア 基本的な生活習慣

挨拶や健康についての簡単なマニュアルや既成のリーフレット等を掲示して自律を促しました。また、今年は感染予防やニューノーマルの生活様式についても注意喚起しました。

イ 生産活動

各々の能力に見合った作業に取り組めるように生産工程を細分化する、分かりやすい図や数値を掲示する等の支援をしました。また、利用者同士の相性を考慮して作業中のトラブルの軽減を図ったり、毎回座席や作業グループを変えて仕事に飽きない工夫をしました。自主製作品の作成も継続していますが、販売の機会が激減しているため工賃増に寄与するには至りませんでした。本年度の工賃支払い状況は表のとおりで、平均工賃は、10,193円/月で昨年並みとなりました。

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月
支給額	165,489円	49,019円	79,344円	179,825円	197,100円	177,166円
10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
152,223円	148,993円	874,024円	208,778円	205,529円	240,574円	2,678,064円

ウ 就労支援

就労支援センターの協力で1名を対象に企業見学や短期訓練を実施して、障害者雇用制度を利用し就職することができました。

エ 余暇活動

ご本人自身で自由に余暇を楽しめる利用者が多いため季節行事は実施しませんでした。

オ 健康管理

希望者に健康診断を実施しました。また、相談事や心配事がある利用者に対してはその都度話ができる機会を設けて、不安や混乱が大きくなるように対応しました。

(2) 働きやすい職場づくり

ア 業務内容の整理

業務分掌を明確にし、業務の効率化を図りました。

イ 心身の健康への配慮

健康診断、ストレスチェックを実施して職員の心身の健康が損なわれないように予防に努めました。特に指摘事項のあった職員はおらず、事故、労災もありませんでした。

ウ 年次有給休暇の取得促進

職員間で予定を早めにすり合わせて年次有給休暇を年間 5 日以上取得することができました。

(3) 人材育成

ア 研修参加状況

研修名	主催	期日	場所	参加者
就労支援フォーラム NIPPON 「ひるむな、私たち。」 (リモート)	日本財団	8/24~26		岡本、大出、小田部
新任職員研修	法人	9/10	久喜けいわ	岡本、大出、小田部
JIC 防災研修 (リモート)	株式会社 JIC	11/6		小田部
就労支援フォーラム NIPPON 「THE ANSWER」 (リモート)	日本財団	12/12、13		岡本
主任主査研修 (リモート)	法人	12/4		岡本、大出、小田部

イ 毎日の打合せや職員会議、ケース会議をとおして利用者各々への理解を深め、上記研修に参加して仕事への意識や知識、技術を養い支援にあたりました。

(4) リスク管理

ア 研修、自己点検、職員の相互確認等で、虐待の防止に努め、利用者と一緒に虐待について考える機会を設けました。

イ 避難訓練を 2 回実施し、備蓄の災害用物品については利用者と共に置き場所や使用方法を確認しました。また、災害伝言板のテスト利用や備蓄食品の試食等、より具体的な訓練を行い、防災意識を高めました。

ウ 新型コロナウイルス感染防止のため、手指や備品の消毒、アクリル板の設置、時間差による休憩時間の設定等を行いました。また、緊急事態宣言発令中は公共交通機関を利用しなくても通所できるように、利用者を自宅最寄り駅まで迎えに行けるように送迎車ルートを変更しました。

(5) 地域交流

ア 本年度は感染防止の観点から、地域交流は行いませんでした。

(6) 事業運営

ア 利用率の向上と収支の均衡を図る

利用率 85%の到達を目指しましたが、達成には至りませんでした。年度の前半はコロナ禍のため見学や体験、利用希望者勧誘のための行政等への訪問を制限したため思うように新規利用契約者を増やすことができませんでした。

イ 支援体制の整備

事業所内での会議はもちろんのこと、利用者を良く知る支援センターや他の福祉サービス事業所や医療機関とも連携し情報を共有しながら支援を行いました。

ウ 生産活動の計画

(ア) 農作物の生産

昨年度に引き続き、埼玉県が実施する障害者農業参入チャレンジ事業に参加し、埼玉県農林公社から技術指導と資材の提供を受け、玉ねぎの栽培に取り組みました。しかし、圃場と事業所が離れていること、夏場の日中に活動しなければならず熱中症の危険があること、農作業担当を希望する利用者がいないことから、この事業は本年度で終了することにしました。

(イ) 企業からの受託作業

利用者が徐々に増える中、新しい受託作業受注先を 1 件獲得し、非常事態宣言が発令された時期以外は受注量も増えています。新規利用者は受託作業のみの参加を希望される方が多く、今後もこの傾向は続くと思われま

(ウ) 自主製品製作

昨年度から始めたアクセサリー作りに引き続き取り組んでいます。試行錯誤は続いています。意欲的に取り組む利用者がお

久喜市いちょうの木 事業報告

令和2年度事業計画に基づいて以下の事業を行いました。

1 実施事業

(1) 定員と現員

令和3年3月31日現在

事業名	定員	現員
生活介護	定員40名	現員39名（男性26名、女性13名）

(2) 利用者の状況

ア 年齢構成

区分	～19	20～24	25～29	30～39	40～49	50～59	60～	平均
男	0	0	1	12	7	4	2	43.0歳
女	0	0	0	5	5	3	0	39.6歳
計	0	0	1	17	12	7	2	41.3歳
%	0	0	2.6	43.6	30.8	17.9	5.1	100

イ 障害支援区分

区分	区分3	区分4	区分5	区分6	計	平均区分
男	0	9	5	12	26	5.1
女	0	3	4	6	13	5.2
計	0	12	9	18	39	5.2
%	0	30.8	23.1	46.1	100	

ウ 療育手帳・身体障害者手帳の所持状況

区分	療育手帳						身体障害者手帳						
	㊦	A	B	C	なし	計	1級	2級	3級	4級	5級	なし	計
男	19	7	0	0	0	26	2	3	0	0	0	0	5
女	10	2	1	0	0	13	3	1	0	1	0	0	5
計	29	9	1	0	0	39	5	4	0	1	0	0	10
%	74.4	23.0	2.6	0	0	100	50.0	40.0	0	10.0	0	0	100

(3) 職員体制

職種	配置人数	備考
施設長	1	サービス管理責任者兼務
主査支援員	1	相談支援専門員兼任
主任支援員	1	相談支援専門員兼任
生活支援員	15	常勤13名 非常勤2名
看護師	1	法人内他事業所兼務
栄養士	1	法人内他事業所兼務
事務員	1	
運転員	2	
計	23	

2 重点実施事項

(1) 重度障害者支援加算の取得

重度障害者支援加算対象となる利用者 20 名全員（7 月より対象者 1 名が退所となったため、8 月以降は 19 名）の加算を取得し大幅な収入増を図ることができました。また、加算要件である強度行動障害者支援者研修に参加したことで行動障害を有する人への理解と適切な対応方法を学ぶことができて支援の質の向上にもつながりました。

(2) 利用者の社会参加

表現活動の一環として取り組んだ利用者の絵画作品が「埼玉県障害者アート展覧会」と「埼玉県障害者絵画展」に選ばれ、それぞれの会場で展示されました。また、作品販売においては、ターゲットとする客層とそれにマッチする販売店を検討して市内の農産直売所に作品を陳列させてもらい販売しました。大変好評で作業収入額が昨年度の約 1.8 倍増となりました。その他、区内の回覧板等で商品案内をして地域の方に広く認知してもらうようにして活動を通じた社会活動の参加ができました。

(3) ボランティア活動の充実

新型コロナウイルス感染症の感染予防対策の観点から、ボランティアの受け入れは自粛したため実現できませんでした。

3 事業報告

(1) 利用者支援

ア 支援方針

本人の尊厳を尊重することを心掛けながら、状態像のアセスメント結果に基づいて過不足のない取り組みを行いました。

イ サービスの提供

新型コロナウイルス感染症の影響により様々な活動場面で制限せざるを得ない状況になりました。とりわけ、外出を伴う行事や人が密集しやすくなる交流行事等は中止または感染対策を十分に行ったうえで縮小、代替をして実施しました。食事や排泄等の日常生活支援は感染対策としてマスク、フェイスシールド、手袋等を着用して支援を行いました。作業活動では人数の分散やアクリル板の設置、ソーシャルディスタンスの確保を行って活動に取り組みました。今年度の作業活動による収入は以下のとおりです。制約が多くありましたが、知恵と工夫を出し合って取り組んだ結果、収入額は昨年度の約 1.8 倍増となりました。

<作業活動収入>

支給日	4 月 10 日	8 月 7 日	12 月 10 日	年間合計
支給額	246,384 円	305,887 円	335,274 円	887,545 円
平均支給額	6,318 円	7,461 円	8,597 円	7,458 円
最高支給額	7,104 円	7,954 円	8,991 円	8,016 円
最低支給額	4,704 円	4,947 円	6,438 円	5,363 円

※昨年度年間支給額 491,433 円 昨年度比：+396,112 円

ウ 虐待防止対策

埼玉県障害者虐待に関する報告書を参考に事例を取り上げて内部研修を行いました。また、虐待防止チェックリストを活用し、個人の課題や事業所としての課題について職員間で共有課題解決のための意見交換を行いました。新型コロナウイルス感染症の感染予防の観点から外部研修への参加は行いませんでした。

(2) 働きやすい職場づくり

ア 業務の改善

雇用形態に応じた業務量と責任度合いの見直しを行いました。(担当利用者や行事、係等の役割に差分) また、障害の特性別の活動班からニーズ別の活動班に再編成したことで職員の介護負担度の偏りがなくなり改善されました。

イ 労働災害の防止

リスクチェック表を活用し、担当者が定期的に点検。危険個所の早期発見に努め、改善を講じました。介護備品等の整備については、感染症対策に関する備品を整備して業務中の感染等の疾病対策を徹底して行いました。

ウ 健康維持・向上

ストレスチェック表を実施した結果、昨年度と比べると仕事の負担量のストレスが減少傾向にありました。活動班の再編成に依った業務の偏りの減少とグループ会議が充実したことによる合意形成の機会が増えたことで不安要素が取り除けてきていることが要因として考えられます。

エ 年次有給休暇の取得促進

1人平均14日の取得ができました。昨年度よりも1人平均3日多く取得できました。

(3) 人材育成

ア OJTの強化

研修名	主催	期日	参加者
法人内部研修 「労務管理者研修」	啓和会	令和2年4月27日	中村秀樹
事業所内部研修 「感覚障害の理解について」	久喜市いちょうの木	令和2年9月30日	常勤職員 16名
事業所名部研修 「障害者虐待防止法について」	久喜市いちょうの木	令和2年10月28日	常勤職員 16名
法人内部研修 「意思決定支援ってなんだろう」	啓和会	令和2年11月25日	常勤職員 17名
法人内部研修 「報酬単価と事業運営について」	啓和会	令和2年12月3日	多田 進、 川崎 由衣
事業所内部研修 「感染症の基礎知識について」	久喜市いちょうの木	令和3年1月28日	常勤職員 16名

イ OFF-JTの積極的な参加

研修名	期日	参加者
-----	----	-----

埼玉県主催「商品開発セミナー」	令和2年6月18日	菅原 由華
埼玉県主催「作品の効果的な展示について」	令和2年10月15日	菅原 由華
久喜市主催「福祉避難所開設訓練」	令和2年11月2日	早川 直樹
埼玉県発達障害福祉協会主催「風水害対策について」	令和2年11月6日	早川 直樹
埼玉県発達障害福祉協会「緊急施設長会議（コロナ関係）」	令和3年1月26日	中村 秀樹
埼玉県発達障害福祉協会「緊急施設長会議（報酬改定）」	令和3年3月24日	中村 秀樹

ウ 職務点検活動の取り組み

職務点検活動シートや目標管理シートを活用し年2回の職員面接を行いました。中間面接では個人の課題と事業所としての課題を抽出し、年度末の面接で取り組みの自己評価と達成度についての認識を共有しました。また、施設長との面接の他に主任、主査との面接も実施したことでより具体的な取り組みに繋がりました。

(4) リスク管理

ア 避難訓練の実施

震災を想定した訓練と火災を想定した訓練を消防署立ち合いのもとで実施しました。密にならないように数か所の避難経路を設定したり、避難場所も人数と場所を分散して行いました。消化訓練には利用者にも参加してもらい、防災意識の向上につながりました。また、毎年実施している地元73区の自主防災組織による合同防災訓練は感染予防対策の観点から中止となりました。

イ 建物、設備等の老朽化への対応

久喜市と協議し老朽化した空調設備の新規設置と保存食用の冷凍庫を整備しました。また、業者による全館のワックス清掃や館内消毒を実施して衛生面等の維持を行いました。

ウ 防火体制の見直し

73区の自主防災組織との合同防災訓練は実施できませんでしたが、オンラインを活用した防災研修等に参加し、事業所の防災計画の見直しの参考としました。

エ 機能低下に対応するための医療と専門施設との連携

作業療法士による訪問指導を年2回で計画していましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響で訪問が難しかったため、実施できませんでした。また、3年前から支援の在り方等で相談及び連携している県内の重度心身障害者施設とも以前のように連携を図るのが難しい状況でした。

(5) 地域交流

ア 地域交流行事への参加

毎年恒例となっている地域との交流行事は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により実施できませんでした。予定した主な行事は以下の通りです。

清久さくらまつり（自主製品販売）

人権の集い（作品展示 ※久喜地区、鷺宮地区、菖蒲地区）

いちょうの木まつり（自主製品販売、模擬店、バザー、ステージ発表等）

- ホットハートフェスティバル（自主製品販売）
- 清久コミュニティ協議会（年4回 ※地区の除草、防災訓練）
- 73区自主防災協議会（合同防災訓練、区民まつり）

イ 広報誌の年3回の発行

年4回、発行。関係各所に配布、設置し活動の様子等について広く周知してもらおうようにしました。

ウ 見学者・実習生・ボランティアの積極的な受入れ

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により感染予防対策の観点から、見学者及びボランティアの受入れは行いませんでした。実習生の受入れにあたっては学校側と協議し実習時間の短縮等の対策を図ったうえで以下の受入れを行いました。

〈実習生の受入れ〉

学校等所属	内容	期 間	人数
平成国際大学	介護等体験実習	令和2年8月17日～令和2年8月21日	1名
久喜看護専門学校	看護実習	令和2年8月31日～令和2年9月4日	1名
平成国際大学	介護等体験実習	令和2年9月7日～令和2年9月11日	1名
久喜看護専門学校	看護実習	令和2年9月14日～令和2年9月18日	1名
文教大学	介護等体験実習	令和2年9月21日～令和2年9月25日	1名
立正大学	介護等体験実習	令和2年10月5日～令和2年10月9日	1名
久喜看護専門学校	看護実習	令和2年10月12日～令和2年10月16日	1名
久喜看護専門学校	看護実習	令和2年10月26日～令和2年10月30日	1名
東萌短期大学	保育実習	令和2年11月4日～令和2年11月17日	1名
平成国際大学	介護等体験実習	令和2年11月9日～令和2年11月13日	1名
埼玉福祉専門学校	保育実習	令和2年11月16日～令和2年11月30日	1名
久喜看護専門学校	看護実習	令和2年12月14日～令和2年12月18日	1名
延べ 12校		延べ日数 74日	12名

エ 清久コミュニティ協議会への参加

新型コロナウイルス感染症の影響で協議会自体の活動が控えられていたため参加はできませんでした。

(6) 事業運営

ア 利用率の向上

※昨年度比：+3.1%

月 別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
開所日数	22	19	22	22	20	21	23	20	21	18	19	23	250
延利用人数	862	754	886	834	741	785	856	719	723	661	708	884	9,413
利用率 %	98.0	99.2	100.7	94.8	92.6	93.5	93.0	89.9	86.1	91.8	93.2	96.1	94.1

イ 土曜開所の実施

※昨年度比：-15人

月 別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
延べ人数	24	29	0	23	0	26	26	25	35	32	26	0	246

ウ 夏季期間中の開所

8月13日～8月14日 延べ利用者数63名

エ 久喜市日中一時支援事業

※昨年度比：-2人

月 別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
延べ人数	1	2	2	1	0	1	5	6	5	0	0	0	23

(7) その他

ア 送迎サービスの実施

公用車 3 台、5 ルートで対応しました。利用された人は 30 名です。感染予防の対策として走行中の換気や乗降時の手指の消毒、添乗職員のマスクとフェイスシールドの着用、降車後の消毒の徹底を行いました。

イ 希望するサービスの把握

2 月にサービス要望書を配布し「運営全般に関すること」と「支援全般に関すること」についての聞き取りを行いました。38 名のご家族に配布し 29 名からの回答を頂きました。これまでは「健康管理に関すること」と「ADL の維持、向上に関すること」がほとんどでしたが、ここ数年は「親亡き後の生活」についての相談・要望が多くなっている傾向が見られました。

ウ 新型コロナウイルスについて

今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により運営において様々な面で制限を余儀せざるを得なくなりました。とりわけ、年末年始においては陽性者 1 名が判明し、いちょうの木の職員、利用者、委託業者 67 名が濃厚接触者となり検査を受けました。幸い全員が陰性と判明しましたが経過観察期間として 2 週間の休所となりました。またその後も、ご本人やその家族が検査を受けるということが少なくなく、感染対策予防の観点から利用を自粛した人は実員 36 名、延べ 393 日で自粛されている利用者には在宅支援を行うことで対応しました。

久喜市立のぞみ園 事業報告

令和2年度事業計画に基づいて以下の事業を行いました。

1 実施事業

(1) 定員と現員

令和3年3月31日現在

事業名	定員	現員
児童発達支援	定員10名	11名（男児6名、女児5名）

< 入退園等 >

入園 4名（4月1日男児3名 11月1日女児1名）

卒園 2名（男児1名、女児1名）

退園 2名（5月31日付男児1名 幼稚園への移行のため）

（3月31日付男児1名 保育園への移行のため）

< 併用の状況 >

4名 幼稚園・保育園との併用

（久喜市立中央幼稚園、久喜市立中央保育園分園）

(2) 利用者の状況

ア 年齢構成

区分	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	平均
男	0	0	1	2	2	1	0	5.6歳
女	0	1	0	2	1	0	1	4.4歳
計	0	1	1	4	3	1	1	4.5歳

イ 障害者手帳の所持状況

区分	療育				身体	なし	計
	㊤	A	B	C	1級		
男	0	1	1	0	1	3	6
女	0	0	1	1	1	2	5
計	0	1	2	1	2	5	11

ウ 利用率の状況

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
開園日数	21	18	22	21	18	20	22	19	20	19	18	23	241日
延利用人数	112	100	140	123	116	130	144	135	133	137	126	161	1557人
利用率%	53.3	55.6	63.6	58.6	64.4	65.0	65.5	71.1	66.5	72.1	70.0	70.0	64.6%

(3) 職員体制

職 種	配置人数	備 考
園 長	1	児童発達支援管理責任者兼務
保 育 士	4	
支 援 員	1	

計	6	
---	---	--

2 重点実施事項

(1) 利用率の向上

70%を目標としていましたが、年間64%と目標に到達しませんでした。幼稚園や保育園と併用している方が利用しない日を有効に活用できなかったことと、新型コロナウイルスの感染予防による利用の自粛が理由としてあげられます。今後も利用率を上げることを必須の課題として努力していきます。

(2) 役割の明確化

職員間で相談しながら、雇用形態ごとに仕事が分担できるように業務の分担や簡素化を図りました。まだ不十分な点はありますが、職員が公平に業務を行い、自分の仕事を把握できるよう今後も改善をしていきたいと思えます。

(3) 専門的な知識や技術の習得

発達支援の専門研修を受講し、職員間で学んだことの報告を行いました。また、発達支援の専門誌を購読し、発達障害についての知識・支援の方法、保護者支援について深く学ぶことができました。

3 事業報告

(1) 利用者支援

保護者や療育専門指導者と連携を取ったり、遠城寺式乳幼児分析的発達検査法や乳幼児精神発達診断法などの発達検査を行いながら、個々に合った支援を行いました。

ア 集団生活に適應する力を育てる

(ア) 食事、排泄、着替えなどの生活習慣や動作をできるだけ自分で行えるように支援をしました。個々に分かりやすく伝えられる方法で、少しずつ段階を踏みながらスモールステップで行いました。

(イ) 生活の中のルールや、人と関わる楽しさを学べるように支援をしました。順番を待つことができるようになったり、友達への興味が少しずつ見られるようになるなど、成長が見られました。

イ 個別支援

(ア) 2～3ヶ月に1回、発達検査を用いて個々の発達段階を確認し、課題を抽出しながら支援を行いました。

(イ) 箸やハサミの使い方、つまむ、握るなど指先や手を使う練習、体幹を鍛える運動などを個別に行う機会を設けました。遊びの中で楽しみながらできるように、行い方も工夫をしました。自分から進んで行う様子も見られました。

ウ 療育専門指導

定期的な療育の訪問指導を行いました。指導者と情報交換を行い、子どもの発達についての情報を共有しました。また、指導者からのアドバイスを参考にして日々の支援を行いました。

エ 家族支援

(ア) 保護者会を年2回行い、意見交換を行いました。運営に関することなどの意見は出まらなかったが、保護者同士の情報交換の場として良い機会となりました。

した。コロナ禍で集まる機会をとることが難しくもありますが、保護者同士の連携を取る機会をできるだけ設けていきたいと思います。

(イ) 就学支援として、就学に関する情報の提供や、座談会を行いました。卒園する年長児の保護者だけでなく、年少、年中児の保護者も就学に対する関心が高いため、今後も就学支援を継続していきたいと思います。

オ 移行支援

幼稚園や保育園と連絡会を行い、併用をしている子どもの様子の情報交換や、利用日数・課題についての意見交換を行いました。併用の希望が増えている傾向があるため、幼稚園や保育園との連携を今後も定期的に行っていきたいと思います。

カ 虐待防止対策

新型コロナウイルス感染予防のため、ボランティアや実習生の来園がなく、支援についてのアンケートの実施や研修への参加はできませんでしたが、内部研修やチェックシートを使って現在行っている支援が適切であるかの確認を行いました。

(2) 働きやすい職場づくり

ア 業務の見直し

職員間で相談しながら、雇用形態によって公平に仕事が分担できるように業務の分担や簡素化を図りました。

イ 時間外労働の軽減

業務の簡素化をしましたが、時間外労働の軽減にはなかなか繋がりませんでした。時間を有効に利用できるように、業務の見直しだけでなく仕事のスケジュールの把握等努めていきたいと思います。

ウ 年次有給休暇の取得促進

年次有給休暇を全職員が5日間取得しました。職員が休みを取り、気持ちをリフレッシュして仕事に臨めるように、休みを取りやすい環境作りを今後も行っていきたいと思います。

(3) 人材育成

ア 発達支援の専門的な知識の習得

発達支援について、オンライン研修に参加しました。また、研修で学んだことを職員間で報告し、支援の向上に結びました。

イ 職務点検の実施

職務点検シートを活用して目標を持って仕事に臨んだり、自分の仕事を振り返ることで自分の課題を意識して仕事に取り組むことができました。

ウ 職員の研修

<外部研修>

研修名	主催	期日	参加人数
「作業療法士による発達障害児への生活支援の実践」	埼玉県発達障害総合支援センター	12月18日	1名

「外国にルーツのある発達障害児支援研修」	埼玉県発達障害総合支援センター	2月23日	1名
「ペアレントトレーニングとは」	埼玉県発達障害総合支援センター	2月25日	1名

< 内部研修 >

研修名	期日	参加人数
地域の関係機関との連携、入園時の流れについて	8月26日	3名
虐待防止について	12月14日	3名
新任職員研修「施設紹介」(発表)	9月10日	1名
主任主査研修「支給決定とサービスについて」「報酬単価と事業運営について」	12月3日	1名

(4) リスク管理

ア 災害対策

- (ア)地震、火災、水害、防犯などの避難訓練を毎月実施しました。隣接のすみれ保育園とも連携を取り、一緒に避難訓練を行いました。また、マニュアルの見直しをして、避難の仕方などの確認を行いました。
- (イ)保護者会で災害時のマニュアルや、対応の仕方について保護者へ説明をしました。どのように訓練を行っているか伝える機会を持つことで、保護者の方の安心に繋がったようでした。

イ 安全確保

- (ア)子ども達が活動する場所や使用する物品の安全点検を定期的に行いました。必要に応じて補修や取り替えを行い、安全に子ども達が過ごせるように努めました。
- (イ)ヒヤリハット事例は少ない件数でしたが、事例をもとに職員間でどのような時が危険か共有をして支援をすることができました。

(5) 地域支援・交流

ア 地域の関係機関との連携

保健センターや久喜市の子ども未来課、支援センター等の関係機関と連携を取り、情報を共有しました。療育が必要な子どもの入園に繋げることができました。また、併用をしている子どもが通園している園と連絡会を開いたり、電話で連絡を取り合い連携に努めました。

イ ひよこ教室、すみれ保育園との交流

すみれ保育園の園児とは、園庭での遊びの中で関わりを持つことはありましたが、新型コロナウイルス感染予防のため交流活動の機会を持つことはできませんでした。ひよこ教室との交流も同様です。

(6) 事業運営

ア 空席のカバー

併用をする子どもが利用しない日を有効活用できるように、子どもの受け入れ態勢を整えることが不十分でした。結果、利用率の向上に繋がることがで

きなかったため、職員体制や活動内容の見直しを図り、子どもの受け入れを行っていきたいと思います。

イ のぞみ園のアピール

法人のSNSやホームページで活動内容や園児募集の掲載をしました。活動内容の掲載が少なかったのですが、園に見学に来た方からは、ホームページを観たという方が多かったので、アピールには繋がっていると思います。今後も定期的に発信していきたいと思います。

(7) その他

ア 建物や設備の維持管理

建物、設備が老朽化してきているため、点検を定期的に行ったり必要に応じて修繕・購入をしました。

イ 自己評価表の公表

保護者・事業所がつけた評価表を、意見に対する改善・対応コメントと共に法人のホームページに掲載しました。保護者からは、概ね良好な意見と評価を頂きました。

久喜市ゆう・あい 事業報告

令和2年度事業計画に基づいて以下の事業を行いました。

1 実施事業

(1) 定員と現員

令和3年3月31日現在

事業名	定員	現員
生活介護	定員20名	20名（男性14名、女性6名）

(2) 利用者の状況

ア 年齢構成

区分	10代	20～24	25～29	30代	40代	50代	60代	平均
男	0	3	7	3	0	1	0	29.4歳
女	0	0	1	2	3	0	0	36.6歳
計	0	3	8	5	3	1	0	31.6歳
%	0	15	40	25	15	5	0	100

イ 障害支援区分

区分	区分3	区分4	区分5	区分6	計	平均区分
男	1	1	5	7	14	5.3
女	0	2	1	3	6	5.2
計	1	3	6	10	20	5.2
%	5	15	30	50	100	—

ウ 療育手帳・身体障害者手帳の所持状況

区分	療育手帳						身体障害者手帳						
	㊦	A	B	C	なし	計	1級	2級	3級	4級	5級	なし	計
男	13	1	0	0	0	14	0	0	1	0	0	13	14
女	3	2	0	0	1	6	2	1	1	0	0	2	6
計	16	3	0	0	1	20	2	1	2	0	0	15	20
%	80	15	0	0	5	100	10	5	10	0	0	75	100

エ 利用率の状況

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	21	19	22	22	21	21	23	20	21	20	19	23	252日
延利用者数	397	358	415	418	374	392	431	375	391	375	355	443	4,724人
利用率	94.5	94.2	94.3	95.0	89.0	93.3	93.7	93.8	93.1	93.8	93.4	96.3	93.7%

(3) 職員体制

職種	人数	備考
施設長	1	正規職員（法人内他事業所兼務）
主任	1	正規職員（サービス管理責任者）
生活支援員	11	正規職員2名 契約職員1名 契約短時間職員8名

生活支援員兼事務員	1	定年再雇用
看護師	1	常勤契約職員（法人内他事業所兼務）
計	14名	

2 重点実施事項

（1）活動班の再編成

作業活動について再アセスメントを実施して、利用者それぞれの個性やニーズに応じたグループの再編成を行いました。また、日毎に作業内容を計画立て、その内容に応じた職員配置で取り組めるようにしました。

（2）支援力の向上

新型コロナウイルス感染症の感染防止を考慮し、内部研修やグループ会議の頻度は低かったですが、夕会の場を中心に話し合いを行い、個々のスキルアップを図るとともに全体の支援力が向上するように取り組みました。

3 事業報告

（1）利用者支援

ア 日常生活支援

個別支援計画に基づき、本人の状況に沿いながら、それぞれが自分のことを自分で行えるように環境を整え、できることを増やしていけるように支援をしました。

（ア）食事

食材の刻みやとろみ剤の使用など、咀嚼や嚥下の機能に合わせた支援を行いました。

ピンセット箸や介護用スプーン、小鉢を使っての小分けなど、それぞれの能力に合わせた食器や用具を用意して食べやすいよう工夫しました。

毎月の体重の増減を見て、大幅な変動が見られる方や糖尿病を持つ利用者には、家族や嘱託医、看護師と相談して食事の量を増減するなど、きめ細かい対応をしました。

（イ）排泄

排泄支援の必要な利用者には定時誘導を行い、自分から排泄サインができそうな方には、自発的に行動できるように支援しました。

（ウ）着脱衣等

靴の脱ぎ履きがしやすいよう玄関先の椅子を使用し、安全を確保しながら行いました。

イ 社会生活支援

（ア）社会体験活動

新型コロナウイルス感染症の感染防止を考慮し、日帰り旅行や社会体験外出は中止にしました。7,8月には、感染防止対策を十分配慮したうえで、きっちん・こすもすへの外食体験を実施しました。

（イ）文化活動

活動のなかに音楽や創作活動を積極的に取り入れました。

音楽活動	障害者への音楽指導を行っている講師に来ていただき、音楽療法の手法を取り入れた音楽活動、合奏など
創作・文化活動	創作、ビーズ手芸、絵描き、本読みなど

(ウ) 作業活動

受託作業はコーヒー等の箱入れ、バリ取り、カップ入れ作業を行いました。また、1月から新たにダンボールの組み立て作業を開始しました。

アルミ缶やダンボール、新聞のリサイクル、回収作業は地域の方や市内にある酒屋、ゆうあいの前にあるマルハンやローソンから回収して仕分け作業を行いました。

自主製品の布製品は、定期でボランティアをしてくださる方からアドバイスをいただきながら、さらに種類を増やしてきました。地域行事等が新型コロナウイルス感染症の影響で中止になることが多く、自主製品を販売する機会がなかったため、11月に保護者向けに自主製品販売会を実施して、よりやりがいを持って取り組めるようにしました。

< 班別活動内容 >

ハートワーク班	バリ取り、缶つぶし、牛乳パックの椅子作り、本読み、音楽活動、創作、ビーズ手芸、運動、足湯など
ハンドワーク班	受託作業、自主製品の製作と販売、カレンダー製作、広報紙作成など
フットワーク班	アルミ缶・新聞紙・ダンボール等の回収・選別作業、近隣清掃など

< 作業内容と工賃 >

作業内容	収入額	諸経費	差益額
リサイクル作業	109,487 円	44,046 円	65,441 円
自主製品販売	189,500 円	71,505 円	117,995 円
受託作業	96,384 円	8,569 円	87,815 円
小 計	395,371 円	124,120 円	271,251 円
前年度繰越額	2,652 円	—	2,652 円
合 計	398,023 円	124,120 円	273,903 円

< 工賃支給額 >

※3月31日分は令和3年4月30日に支給

支給日	10月31日	3月31日	合計
工賃支給額	83,800 円	187,100 円	270,900 円
平均支給額	4,190 円	9,355 円	13,545 円
最高支給額	4,500 円	10,500 円	—
最低支給額	1,700 円	3,600 円	—

翌年度へ繰越 3,003円

ウ 余暇活動支援

新型コロナウイルス感染症の感染防止を考慮し、規模を縮小するなどしながら、可能な限り余暇を充実させて楽しみのある生活を送れるよう支援しました。

お盆日課	室内レク、DVD鑑賞、ドライブなど
クラブ活動	スポーツクラブ：久喜けいわの機能訓練棟で運動、公園散策、室内レク、買い物外出など クリエイトクラブ：絵画や工作を取り入れた壁面制作、飾り付け、お菓子作りなど

余暇外出	久喜菖蒲公園	10月
	モラージュ菖蒲、ビバモール加須	10月
	外食（熊谷市）	10月
	環境科学センター	12月

エ 健康支援

- (ア) 日常的な健康管理のほか、ストレッチや散歩、腹筋などの運動や、個別プログラムに基づいた機能訓練、足湯や手浴などの血行促進やリラクゼーション活動など、それぞれの必要に応じた健康支援を行いました。
- (イ) 新型コロナウイルス感染症の感染防止対策として、毎日の検温や手指消毒、換気の徹底、対面にならない、食事時間をずらすなどの環境設定、アクリル板の設置などを行いました。
- (ウ) 8月に健康診断を実施し、健康診断の結果を受けて、9月に嘱託医による健康相談会を行いました。2名の保護者が嘱託医に個別相談をしています。
- (エ) 宮代特別支援学校の協力を頂いて、動作訓練を実施しました（7月）。訓練プログラムの内容にもアドバイスを頂き、利用者の現状に合わせて更新しました。
- (オ) 久喜市歯科医師会の協力による歯科検診とブラッシング指導や久喜市食生活改善推進員による食事指導、作業療法士による相談は、新型コロナウイルス感染症の感染防止を考慮し、中止にしました。

日常健康管理	毎朝の健康チェック、体重、血圧等のバイタル測定（毎月1回）、発作・食事量・排泄等の記録、看護師による健康チェックなど
健康診断	協力医療機関である東鷲宮病院にて、3班に分かれて実施 基本内容のほか、希望により自己負担にて検査項目を追加
嘱託医による健康相談・指導	嘱託医相談 毎月1回 第3木曜日 インフルエンザ予防接種 健診結果や健康についての個別相談会の実施（担当職員による）

オ 虐待防止対策

職員会議にて、職員倫理綱領と職員行動規範の読み合わせや意見交換を行いました。また、11月には職員セルフチェックリストを使用し、支援の振り返りを行いました。

(2) 働きやすい職場づくり

- ア 朝会や夕会、会議ではコミュニケーションの向上を図り、意見を出しやすいようにして、職員全体で支援ができるようにしました。
- イ 職務点検活動の面談の他、必要に応じて職員面談を実施し、心身の健康に配慮しました。

(3) 人材育成

- ア OJTを通じて職員の育成を図り、職員全体の資質の向上に努めました。
- イ 外部研修は、新型コロナウイルス感染症の感染防止を考慮し、オンラインでの研修を中心に参加しました。参加した職員は会議等で全体に報告し、内容を共有しています。研修については以下の表の通りです。

< 外部研修 >

日付	研修名	主催者	参加者
11月1,8日	強度行動障害支援者養成研修（基礎）	藤仁館医療福祉 カレッジ	立野
11月6日	風水害リスクマネジメントセミナー （オンライン）	株式会社ジェイ アイシー	松本、立野
12月16日	新型コロナウイルス感染症対策BCPセミナー （オンライン）	株式会社ジェイ アイシー	松本
2月10日	事例から学ぶコロナ対策（オンライン）	埼玉県社協	松本、高宮
3月2,3日 4,5日	福祉現場に必要な法律の基礎知識研修 （オンライン）	埼玉県社協	江森、立野 真辺、岡野
3月9,17日	摂食・嚥下研修（オンライン）	埼玉県、 埼玉県事業団 埼玉県社協	高宮、上野 石川
11月1,8日	強度行動障害支援者養成研修（実践）	藤仁館医療福祉 カレッジ	立野

< 内部研修 >

日付	内容	参加者
6月26日	防災研修（水害）	松本、江森、立野、真辺、高宮、岡野 佐藤、伊藤、染谷、池田、木村、本多

< 法人研修 >

日付	内容	参加者
12月3日	研修	松本

(4) リスク管理

- ア 定期的に建物内外を点検し、安全が確保できるように対応を検討したり、必要な措置を講じました。
- イ 建築基準法に基づく建築物・建築設備定期点検を実施し（業者）、指摘事項はありませんでした。
- ウ 火災を想定した避難訓練（10,11,2月）、水防法に基づく避難訓練（3月）、Jアラートに合わせたシェイクアウト訓練（11月）を実施しました。水防法に基づく避難訓練では、実際の避難場所へ公用車を使用して全員が避難する訓練を行いました。

(5) 地域交流

- ア 地域への奉仕活動として、地域の美化活動を行いました。
- イ 利用者の編集によるゆうあい通信を年6回発行しました。事業所内での活動を報告するほか、自主製品のカタログを添付し、地域の方に色々と知っていただくよう努めました。
- ウ 地域のイベントや法人主催行事、あゆみの郷と合同で開催するクリスマスコンサートは、新型コロナウイルス感染症の影響により、実施されませんでした。

エ ボランティアについては、2名の方が定期的に来てくださっており、音楽活動や自主製品製作補助をしていただきました。

ボランティア（定期）	作業補助、散歩付添い、音楽活動等	2名、延27日
介護等体験		5名、延25日

（6）事業運営（自主事業）

ア 時間延長の受入れ

原則、8:30 から 17:30 の間で、要望に応じて実施しました。

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
利用延人数	7	3	18	4	6	4	5	8	7	6	7	1	76人

イ 休日開所の利用

季節に合わせた室内レクを中心に、近隣への散歩や DVD 鑑賞などを行いました。

月別	5	7	8	9	10	11	12	1	2	合計
利用人数	12	12	12	12	12	12	11	11	11	105人

ウ 宮代特別支援学校の協力を頂いて、動作訓練を実施しました（7月）。訓練プログラムの内容にもアドバイスを頂き、利用者の現状に合わせて更新しました。

エ 送迎サービス

公用車（リフト付きハイエース）を使用して朝夕の送迎サービスを行いました。8名の方が常時利用しています。また、家族の都合や悪天候により、送迎を希望した方への送迎を実施しました（5名、延べ33回）。

久喜市あゆみの郷 事業報告

令和2年度事業計画に基づいて以下の事業を行いました。

1 実施事業

(1) 定員と現員

令和3年3月31日現在

事業名	定員	現員
生活介護	定員15名	17名（男性12名、女性5名）
就労継続支援B型	定員15名	17名（男性10名、女性7名）

(2) 利用者の状況

ア 年齢構成

	10代	20代	30代	40代	50代	60代～	平均
生活介護	0	7	4	3	0	3	38.5歳
就労継続	0	7	5	3	2	0	34.2歳
計	0	14	9	6	2	3	36.3歳

イ 障害支援区分

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	未判定	計
生活介護	0	0	4	3	6	4	0	17人
就労継続	0	1	7	4	0	0	5	17人
計	0	1	11	7	6	4	5	34人

ウ 療育手帳の所持状況

	㊤	A	B	C	なし	計
生活介護	9	4	3	0	1	17人
就労継続	1	7	5	2	2	17人
計	10	11	8	2	3	34人

エ 利用率の状況

(ア) 生活介護

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	21	19	22	22	20	21	23	20	20	19	18	23	248日
延利用者数	270	249	312	300	263	291	314	274	264	257	246	322	3,364人
利用率	86	87	94	91	88	92	91	91	89	90	91	93	91.3%

(イ) 就労継続支援B型

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	21	19	22	22	20	21	23	20	20	19	18	23	248日
延利用者数	319	273	342	330	303	317	356	314	285	257	261	317	3,674人
利用率	84	95	104	100	101	100	103	104	95	90	96	92	98.5%

生活介護は、一部の利用者又は家族の体調等の不良で利用できていません。相談センター等と協働で取り組みましたが、通所できない事が多かったです。就労継続支援B型事業の利用率は98.5%となりました。年度の後半は、新型コロナウイルスの関係で利用率が下がっています。

(3) 職員体制

職 種	配置人数	備 考
施設長	1	サービス管理責任者兼務
主任生活支援員	1	生活介護（運転業務兼務）
生活支援員（生活介護）	6	運転業務兼務 2名
生活支援員（就労継続）	2	
目標工賃達成指導員	1	就労継続支援B型
看護師	1	生活介護
事務員	1	
計	13	

2 重点実施事項

(1) 一人ひとりの能力や適性に応じた支援

アセスメントに基づいて、一人ひとりの適性に合わせた支援を行いました。また、本人の希望を聞き取り可能な限り実現に向けた支援を行いました。就労支援B型の利用者には、実習の機会や就職に向けた実習を行うことができました。

(2) 工賃の維持向上のための支援

コロナ禍の中、途切れなく作業を行う事が出来ましたが、受注する品、数量共に減少しており令和元年の作業工賃を維持することは出来ませんでした。現在もコロナ禍で出荷数自体が減少してしまい受注できていない会社がある状況です。今後、令和元年度まで戻すことを目標に置きますが、具体的な策は模索中です。

3 事業報告

(1) 利用者支援（生活介護・就労継続支援B型 共通事項）

ア 日常生活支援

利用者それぞれのニーズや状況によって、きめ細かな支援を取り組みました。問題が発生した際もすぐに対応策を検討して、必要に応じて家族に連絡を取りました。その結果利用者アンケートを実施しても支援に満足しているという意見が多く聞くことが出来ました。

イ 社会生活支援

(ア) 4つの部活動がありますが、感染状況を確認しながらの実施のため例年に比べて、施設外での活動や講師を招いて行う活動は減少しました。利用者からは、やって欲しいとの要望はありますが、引き続き感染状況を確認しながら実施の有無を判断して行きます。

(イ) 利用者自治会活動を行っています。自分達で「考え」「話し合い」「決めて」「実行」する取り組みを行いました。各イベントの企画を職員と一緒に考えて実行しています。しかし、新型コロナウイルス感染予防のため、あゆみの郷まつりをはじめ多くの行事が中止になっているので活動が十分に出来ませんでした。

ウ 健康管理に関する支援

(ア) 健康診断（1回）と保菌検査（1回）を行いました。いずれも特変はありません。

せんでした。今年度も健康診断は嘱託医の所属する医療機関で実施しました。
(イ) 家族の承諾を得たうえで職員の同行を必要とする利用者には通院同行を行いました。日中の様子を正確に情報交換することによって受診の効果が多く出ています。

(ウ) 12月に新型コロナウイルスのクラスターが発生しました。感染者数は、59名（利用者28名、職員11名、家族等20名）でした。入院等が必要で一時症状が重く出た人もいましたが、現在は健康を取り戻しています。あゆみの郷では、この経験を踏まえ感染前に増して予防対策に力を入れています。

エ 権利擁護に関する支援

(ア) 虐待防止の徹底をしました。利用者の対応方法をすべての職員が共有できる環境づくりを行いました。個別の対応が必要な場合は、次の日には持ち越さないでその日のうちに方針を出していくことを行いました。

(イ) 事業所内で権利擁護や虐待防止に関わる研修を行いました。

(2) サービスの提供

ア 生活介護

(ア) 日常生活支援

個々の行動特性や相性など加味して落ち着いて作業が出来るように、パーテーション、着座場所等を工夫することで、大きな声を出したり、他害をしたりすることが減少しました。

年齢、身体機能を考慮して作業班のメンバー構成を変更しました。室内を中心にゆっくり作業に取り組める班と缶やペットボトルのリサイクル作業、農耕作業とアクティブに活動できる班を細分化しました。

(イ) 作業活動支援

生活介護での内職作業はコロナ禍の影響をあまり受けず途切れなく順調に納入されてきています。自主製品、農耕作業による収穫した野菜は、施設前に設置した無人販売所、週1回木曜日に鷺宮総合支所内、きっちん・こすもす内で販売を行いました。

毎月の工賃収入額は下表のとおりです。

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月
収入額	72,014円	60,306円	56,912円	85,672円	47,444円	63,871円
10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
58,987円	79,517円	59,644円	30,740円	29,865円	32,566円	677,538円

(ウ) 社会活動支援

軽運動（レクリエーション）や買い物外出等を実施しました。各誕生日行っていた外食は新型コロナウイルス感染予防のため実施できませんでした。

イ 就労継続支援B型

(ア) 社会生活支援

課題が多かったり、複数の機関が関わったりする人に対して、関係機関協働で支援を行いました。医療機関が加わることで安定して通う事が出来るようになった事例がありました。

施設外就労で「きっちんこすもす（喫茶店）」のホールで実習をしています。ホールでの作業に適した整容のアドバイスを通じて、日々の身だしなみなどの改善が見られたり、多くの地域のお客さんとの交流しており更にかかわりが広がりを見せました。

(イ) 一般就労への支援

就職を希望する、聴覚と知的障害を併せ持つ利用者に対して、埼玉県庁（人事課）内に新設された定型業務を業務集約した部署（スマートステーション）での採用に応募しました。2次審査の実習までは行きましたが採用には至りませんでした。しかし、本人の大きな自信になりました。今後も一般就労のチャレンジを続けていく予定です。

(ウ) 作業活動支援

工賃収入が大きく下がりました。コロナ禍の中、途切れなく作業を行う事が出来ましたが、受注する品、数量共に減少しており令和元年の作業工賃を維持することは出来ませんでした。現在もコロナ禍で出荷数自体が減少してしまい受注できていない会社がある状況です。今後、令和元年度まで戻すことを目標に置きますが、具体的な策は模索中です。

毎月の工賃収入額は下表のとおりです。

月 別	4月	5月	6月	7月	8月	9月
収入額	212,245円	265,002円	248,153円	232,729円	246,560円	259,498円
10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
213,805円	224,574円	183,756円	203,161円	180,158円	152,346円	2,621,987円

(3) 働きやすい職場づくり

ア 個々の職員同士が日々のコミュニケーションを取れるような環境づくりを行いました。主に夕会を通じて、支援の仕方などがすぐに検討したり、確認したり出来るように意見交換場をその都度行いました。

イ 年次有給休暇を5日以上取得できるように促進しました。結果、平均7.6日の取得が出来ました。

(4) 人材育成

内部研修を重点に支援の質の向上を目指して努力しました。日々の支援の在り方の見直しや意識の向上、専門性を高めるための支援スキルの獲得に努力しました。外部研修については新型コロナウイルス感染予防の為、例年より参加回数は減少しました。

研修名	主催者	日付	参加者
就労支援フォーラム NIPPON	日本財団	令和2年8月24日 ～26日（オンライン研修）	桜井
風水災リスクマネジメント セミナー	埼玉県発達障害福祉協会	令和2年11月6日 （オンライン研修）	桜井
介護の日記念研修 ～認知症×発達障害～	埼玉県社会福祉協議会	令和2年11月11日、 13日（オンライン研修）	支援員 全員

就労支援フォーラム NIPPON フクオカ	日本財団	令和2年11月18日 (オンライン研修)	桜井
財務管理担当者研修 Aコース	埼玉県社会福祉協議会	令和2年11月中 (オンライン研修)	南 桜井
新型コロナウイルス感染症 対策研修	埼玉県障害者支援	令和3年1月29日 (オンライン研修)	桜井

(5) リスク管理

- ア 避難訓練を3回実施しました。想定は火災だけではなく、地震や竜巻などの災害も想定して実施しています。
- イ 洪水被害の勉強会を行いました。避難場所等の確認をしました。また、久喜警察署協力のもと行っている交通安全研修は、コロナウイルス感染予防のため今年度は中止になりました。

(6) 地域交流

- ア 地域行事、あゆみの郷まつりは、新型コロナウイルス感染予防の為すべて中止となりました。
- イ 施設の前にアルミ缶置き場を設置していましたが更に段ボール置き場を設置し地域の自治会を通じPRを行いました。たくさんの方が毎日のように持ってきてもらっています。
- ウ 「あゆみだより」を年3回発行しました。
- エ 実習生、ボランティアの受け入れについては次のとおりです。

(ア) 施設現場実習の受入れ

期 間	所 属	人数	延べ日数
令和2年8月3日 ～令和2年8月17日の間	国際学院埼玉短期大学 (幼児保育学科)	1	10日間

(イ) 進路体験実習の受入れ

期 間	所 属	人数	延べ日数
令和2年10月26日 ～令和2年10月30日の間	久喜特別支援学校	1	5日間

(ウ) ボランティアの協力

延べ人数、474名（令和元年628名）が協力していただきました。今年度は新型コロナウイルス感染予防の為感染状況を踏まえた受入れを行いました。植栽や畑の管理等は、利用者と接する機会が少ないので通年で行っていただきました。

(7) 事業運営

ア 自主事業

- (ア) 送迎サービスを行っています。3便、17名が送迎サービスを利用しています。
- (イ) 日中一時の受け入れを行いました。行動障害が激しい事に加え、母親の疾病により家族の支援力が低下してしまった方の受け入れを行いました。体型も大

きくパニックになると嘔みつく、などの他害行為になる事がありました。相談センター等と連携して適切な医療が受けられた事で以前よりも情緒が安定しました。年末に母親が亡くなり家で支援することが困難となり緊急で入所施設を探していました。現在は、入所施設で暮らしています。